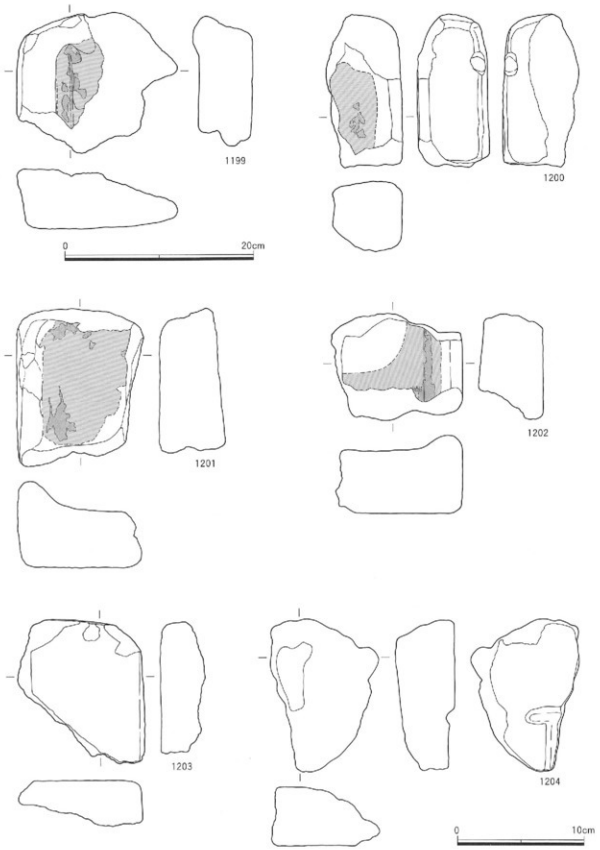
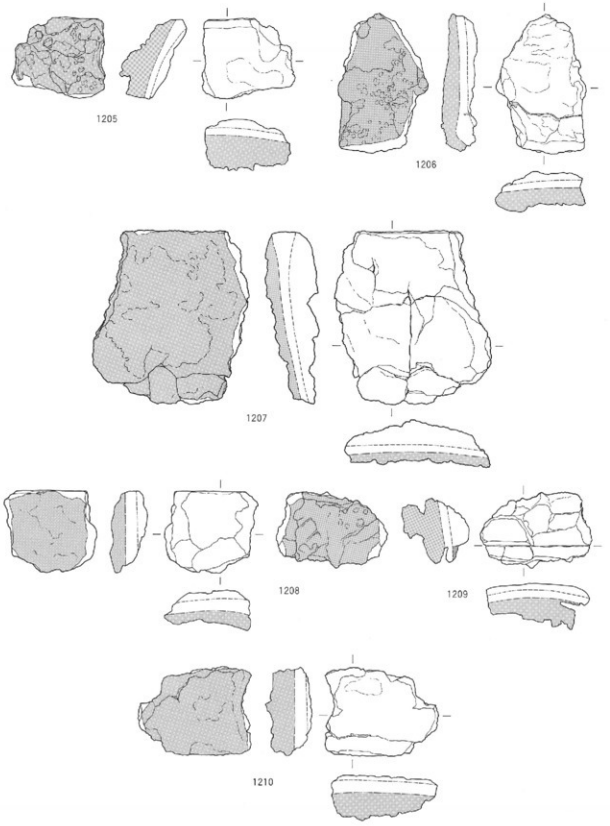


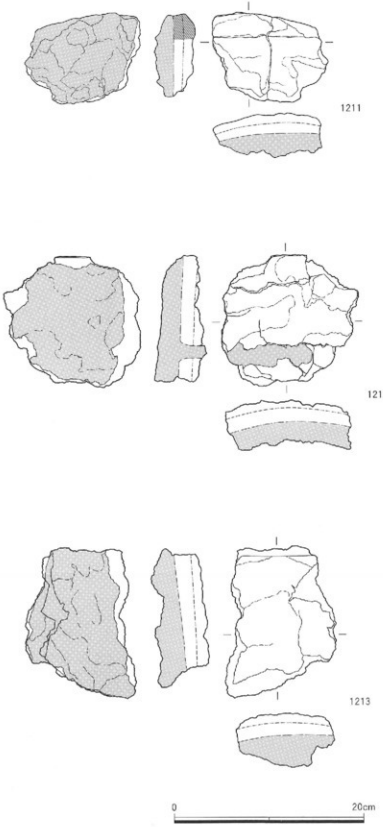
第686図　Ⅳ地区SK1301遺物実測図(5)



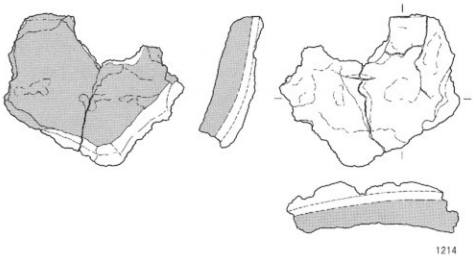
第687図　Ⅳ地区SK1301遺物実測図(6)

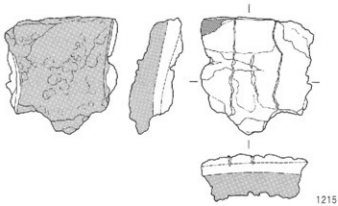
い。また上下や部位は、滓の重下方向や厚み、器壁の角度や厚みによって想定した。土質部の胎土はきわめて粗く、5㎜前後の礫を多量に含む。結晶片岩・砂岩・泥岩・絹雲母を含む。継目の接着土であるクライは、断面図で斜線で示す部分。粗い土であるが、含有する砂粒は1㎜以下が主体である。色調は比較的淡色で、灰色を呈する部分もある。溶解炉壁・クライの土質に関しては、特に記述ない限り同じものである。

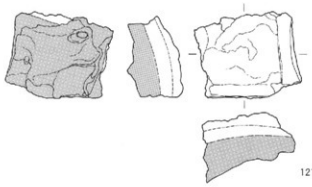
1205は底部上位か。上端面は平坦で、継目部である。1206は体部上位とみられ、外面の横位に走る亀裂から滓がはみ出す。1207は体部上位か。上端面は平坦で、継目部である。1208は体部中位か。上端面は平坦で、継目部である。1209は体部中位か。外面下位に継目があり、クライ残存。1210・1211は体部中位か。1211は上部継目にクライ残存。1212・1213は体部中～下位か。上端面は平坦で、継目である。1212は外面下位に横方向の亀裂があり、滓がはみ出す。1214は体部下位か。上端面は平坦で、継目である。上部に径約8㎝の破孔があり、羽口取付部の可能性がある。1215は体部下位か。上端面は平坦で、継目である。部分的にクライ残存。外面の縦位の亀裂から滓がはみ出す。1216は体部または底部の上位か。下端面と右側面は継目である。



第688図　Ⅳ地区SK1301遺物実測図(7)







第689図　Ⅳ地区SK1301遺物実測図(8)

土坑304号（Ⅳ地区　SK1304）（第690図）

Ⅳ－3区中央部南端、T8グリッドに位置し、東端は遺構に切られる。南北170cm東西残存長162cm深度20cmを測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。

遺物は弥生土器片、土師器片（赤彩ほか）・杯・蓋炊具・竈、須恵器片・杯・皿、土師質管状土錘が出土。1217は土師器杯。口縁端部内面はヨコナデによって凹線状に作る。体部外面横位のヘラミガキ、体部内面に斜状のヘラミガキ暗文を施す。1218は無高台の須恵器皿。1219・1220は須恵器杯。低い高台をもつ。1220は焼成不良で、外面に炭素付着。8世紀後半頃とみられる。1221は土師質管状土錘。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀後半前後と考えられる。

土坑313号（Ⅳ地区　SK1313）（第691図）

Ⅳ－3区中央部南側、A10グリッドに位置する、長軸98cm短軸93cm深度4cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN45°Wを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層。検出面の約20cm上で長軸50cm大の扁平な礫が出土。遺物は鉄製品片、銭貨が出土。1222は鋳銭で、聖宋元寶の真書体。北宋銭で、1101年初鋳。背に鋳ズレあり。

土坑317号（Ⅳ地区　SK1317）（第692図）

Ⅳ－3区中央部南側、T11グリッドに位置し、西は遺構に切られる。長軸残存長115cm短軸95cm深度21cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN68°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。南寄りで10～20cm大の礫が出土する。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器片・杯（静止糸切り）・皿・十能・羽釜、溶解炉、鉄製品片が出土。1223は土師質土器皿。回転台成形で、底部外面に静止糸切り痕を残す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。1224は土師質土器十能。回転台成形で、静止糸切り痕を残す皿を変形させ、一方に把手状の突出部を作る。船底状の断面をもち、上面から3ヵ所穿孔し、うち2ヵ所が貫通する。柄を取り付け固定する基部と考えられる。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1225は土師質土器羽釜。鍔部は折り曲げ成形で作る。体部外面は板ナデを施し、下位に脚部を貼り付ける。内面は横位の板ナデを施す。

遺構の年代は、出土遺物から15～16世紀代と考えられる。

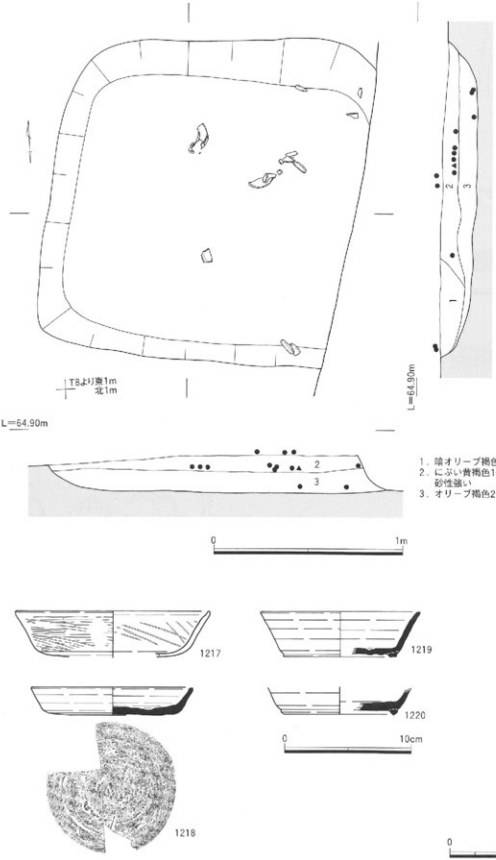
土坑318号（Ⅳ地区　SK1318）（第693図）

Ⅳ－3区中央部、A・B10・11グリッドに位置する、長軸220cm短軸90cm深度22cmを測る不整な隅丸長方形土坑。主軸はN15°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺構北半の埋土第1層で、10～40cm大の礫が集中して出土する。配置に規則性は見いだせない。

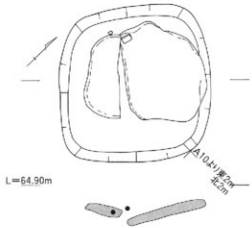
遺物は陶器片、土製鋳型（鋤先）、溶解炉壁が出土。1226は鋤先の鋳型。上型の右側上～中位とみられる。上部に湯口を作る。右肩部に返り状の突出部が付く。部分的にクロミが残存。外面に「・」「—」の記号有り。側面外方の角に部分的に煤付着。1227は溶解炉壁。体部の中～下位か。上端面は平坦で、縦目である。

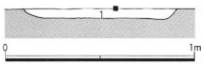
土坑320号（Ⅳ地区　SK1320）（第694図）

Ⅳ－3区中央部南寄り、T11グリッドに位置する、長軸95cm短軸70cm深度15cmを測る隅丸長方形土坑。

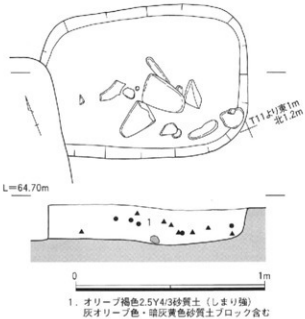


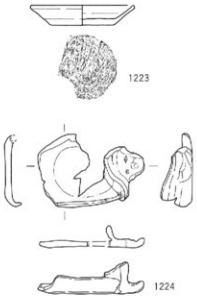
第690図　Ⅳ地区SK1304遺構・遺物実測図

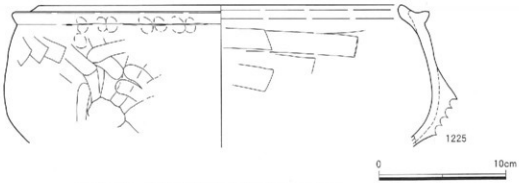




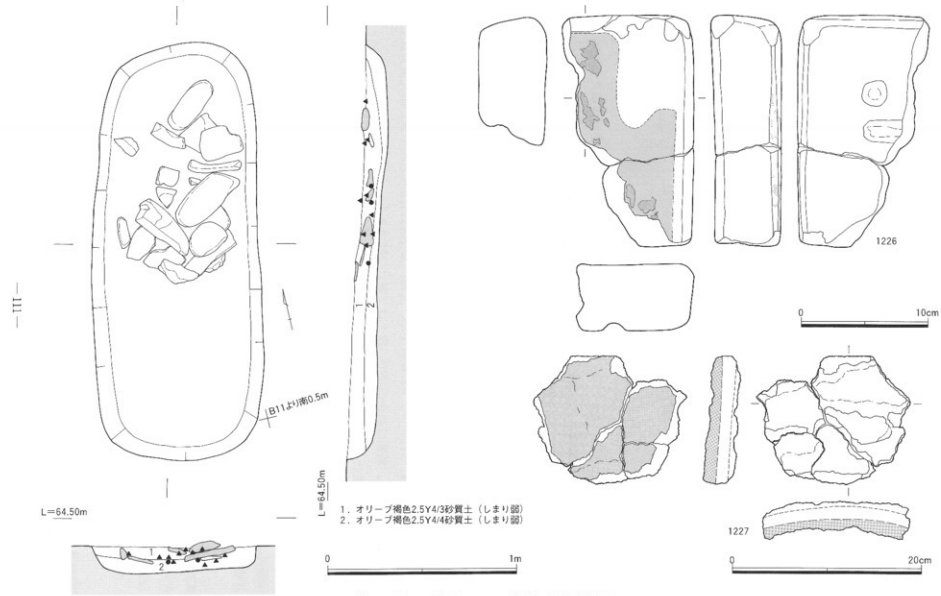
第691図　Ⅳ地区SK1313遺構・遺物実測図







第692図　Ⅳ地区SK1317遺構・遺物実測図



第693図　Ⅳ地区SK1318遺構・遺物実測図

主軸はN90°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。埋土上位で10～30cm大の礫が密に出土する。大型礫は中央部に位置する。遺物は須恵器杯、土師質土器煮炊具が出土。

土坑325号（Ⅳ地区　SK1325）（第695図）

Ⅳ－3区中央部南側、S10・11グリッドに位置する、長軸125cm短軸58cm深度20cmを測る不整な楕円形土坑。主軸はN73°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。

遺物は土師器杯、土師質土器片・擂鉢、黒色土器A類、土製鋳型（鋳Ll）、溶解炉、鉄滓、銭貨が出土。1228は土師器杯。回転台成形で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。底部内面に「在」字を焼成前ヘラ描き。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1229は土師器杯の上半部。中世に下る可能性もある。1230は土製鋳型。鋳口の鋳型で、口唇部～鍔帯部分とみられる。唇端部の復元径は31.8cmを測る。内面に土真土が残り、一部にクロミが残存する。包含層出土の1415と同一個体とみられる。他の鋳造遺物から15～16世紀代と考えられる。1231は銅銭の永楽通寶。明朝銭で、1408年初鋳。

土坑326号（Ⅳ地区　SK1326）（第696図）

Ⅳ－3区中央部南側、S11グリッドに位置する、長軸105cm短軸83cm深度21cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN22°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。埋土第1層～検出面上約10cmで、10～25cm大の礫が出土する。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師器煮炊具、須恵器片、土師質土器杯（静止糸切り）、鉄製品片・楔か釘、鉄滓、粘板岩製砥石が出土。1232は鉄楔か鉄釘。犬釘状で、頭部をL字に作る。1233は粘板岩製砥石。2面を使用する。

土坑329号（Ⅳ地区　SK1329）（第697図）

Ⅳ－3区中央部南端、S11グリッドに位置する、長軸88cm短軸65cm深度20cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN55°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。

遺物は土師器片・煮炊具、須恵器杯、土師質土器片・杯（静止糸切り）・擂鉢・鉢・釜、鋳型、溶解炉、鉄滓が出土。1234は土師質土器釜の上半部。口縁は内側に屈曲する。外面ユビオサエのち斜位板ナデ、内面横位の板ナデを施す。1235・1236は土師質土器擂鉢。1235は口縁は内上方に延びる。外面にユビオサエのち横位の板ナデ、内面はヨコナデのち擂目を施す。1236は底部で、外面に板ナデを施す。内面は磨耗により擂目が確認できないが、器形などから擂鉢と考える。

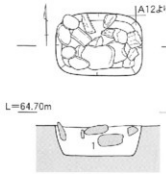
遺構の年代は、出土遺物から概ね15～16世紀代と考えられる。

土坑332号（Ⅳ地区　SK1332）（第698図）

Ⅳ－3区中央部南端、R11グリッドに位置する、長軸85cm短軸60cm深度23cmを測る楕円形土坑。主軸はN86°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。遺物は須恵器杯、土師質土器片・羽釜（内耳）が出土。1237は須恵器杯。体部外面に「山」字状の焼成前ヘラ記号を施す。無高台とみられる。

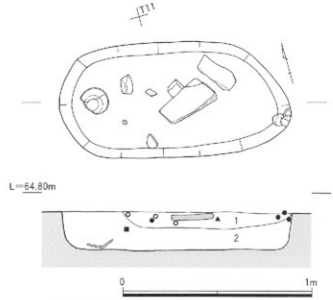
土坑346号（Ⅳ地区　SK1346）（第699図）

Ⅳ－3区東部中央、S・T15グリッドに位置する、長軸125cm短軸80cm深度18cmを測る隅丸長方形土坑。

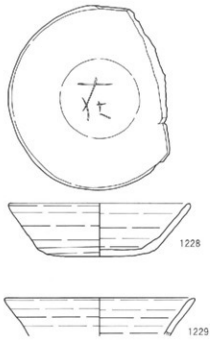


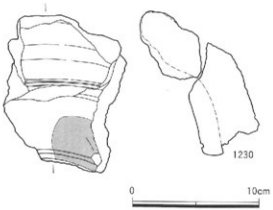
1．黄褐色2.5Y5/3粘質土（しまり強・粘性弱）
炭化物細片含む

第694図　Ⅳ地区SK1320遺構実測図

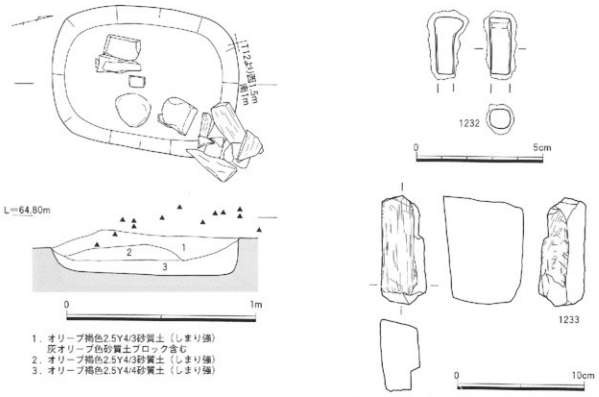


1．黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
2．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



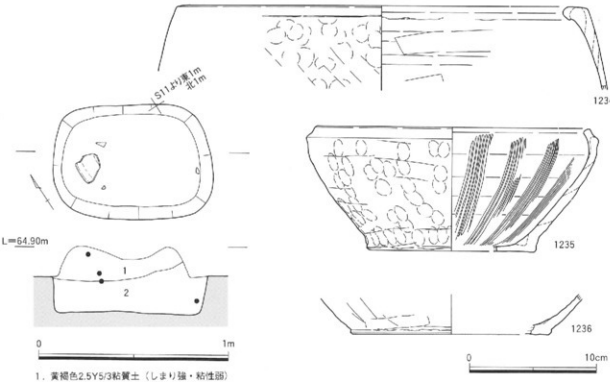


第695図　Ⅳ地区SK1325遺構・遺物実測図



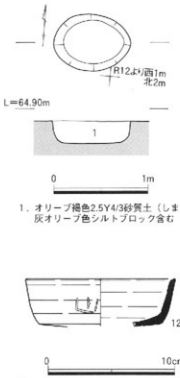
1．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
　灰オリーブ色砂質土ブロック含む
2．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
3．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）

第696図　Ⅳ地区SK1326遺構・遺物実測図

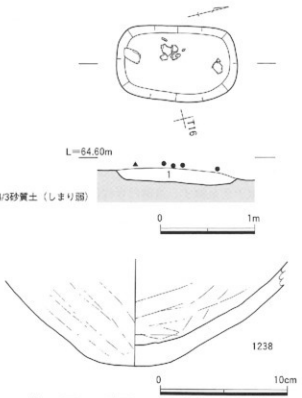


1．黄褐色2.5Y5/3粘質土（しまり強・粘性弱）
　2cm未満炭化物片多く含む
2．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）

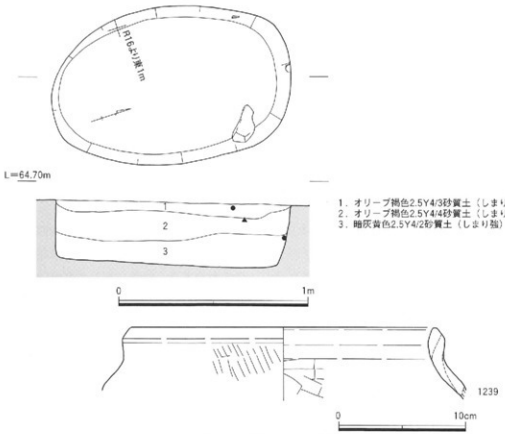
第697図　Ⅳ地区SK1329遺構・遺物実測図



第698図　Ⅳ地区SK1332遺構・遺物実測図



第699図　Ⅳ地区SK1346遺構・遺物実測図



第700図　Ⅳ地区SK1359遺構・遺物実測図

主軸はN15°Eを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層。検出面直上で遺物・礫が出土。遺物は弥生土器壺、土師質土器皿・煮炊具が出土。1238は弥生土器壺の底部。内外面に板ナデを施す。胎土に結晶片岩・緑雲母を含む。弥生時代後期末と考えられる。

土坑359号（Ⅳ地区　SK1359）（第700図）

Ⅳ－3区東部南側、Q・R16グリッドに位置する、長軸125cm短軸85cm深度36cmを測る楕円形土坑。主軸はN10°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層。遺物は土師器煮炊具、須恵器片、土師質土器煮炊具・甕、近世陶磁器片・染付片が出土。1239は土師質土器甕。口縁は肥厚し、端部に向けて細る。内外面に板ナデを施す。遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが中世末～近世初頭とみられる。

土坑360号（Ⅳ地区　SK1360）（第701図）

Ⅳ－3区東部南側、R16グリッドに位置する、長軸125cm短軸100cm深度28cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN11°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。第2層から5～30cm大の礫が多量に出土。

遺物は土師質土器片・擂鉢・煮炊具・羽釜、鉄製品片、鉄刀子、砂岩製茶臼（下臼）が出土。1240は土師質土器羽釜。鍔部は折り曲げ技法で作る。外面下半は板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。1241は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張する。内面ヨコナデのち擂目を施す。1242は鉄製の刀子。身部で、2ヵ所で折り曲げる。1243は砂岩製茶臼の受け部。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15～16世紀代と考えられる。

土坑371号（Ⅳ地区　SK1371）（第702図）

Ⅳ－3区東部南側、Q・R17・18グリッドに位置し、北は撹乱に切られる。長軸115cm短軸残存長75cm深度21cmを測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1244は土師質土器擂鉢の上半部。口縁端部を内上方に拡張する。体部外面にユビオサエのち板ナデ、内面にヨコナデのち擂目を施す。15～16世紀代。

土坑373号（Ⅳ地区　SK1373）（第703図）

Ⅳ－3区東部南側、Q17グリッドに位置する、東西103cm南北103cm深度28cmを測る不整な隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層。

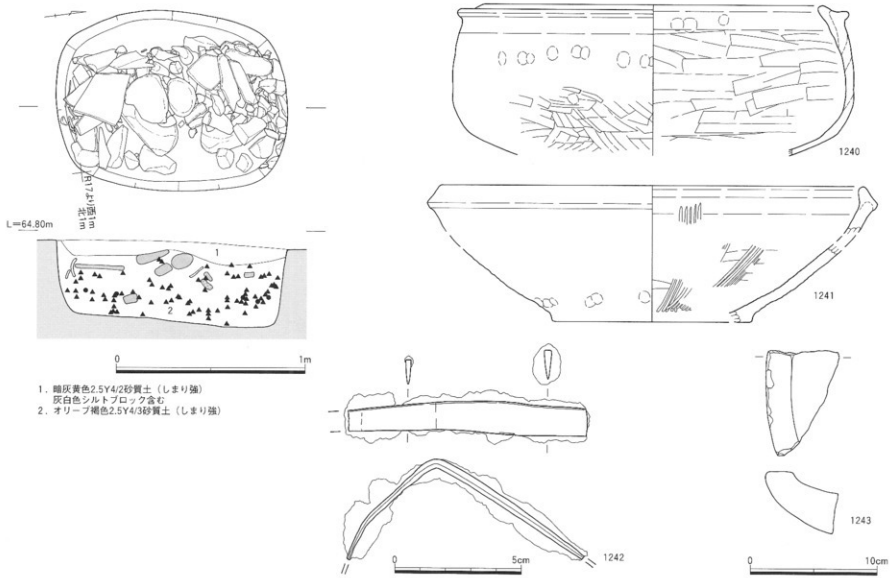
遺物は土師器甕、土師質土器片が出土。1245は土師器甕。遺構南東寄りの検出面で、30cm四方の範囲に集中して出土。体部外面上位ヨコハケのちタテハケ、下位にタテハケを施す。ハケの月は粗い。内面は板ナデを施す。胎土は粗く、結晶片岩と緑雲母を含む。焼成やや不良。法量に比して器壁は薄い。

土坑376号（Ⅳ地区　SK1376）（第704・705図）

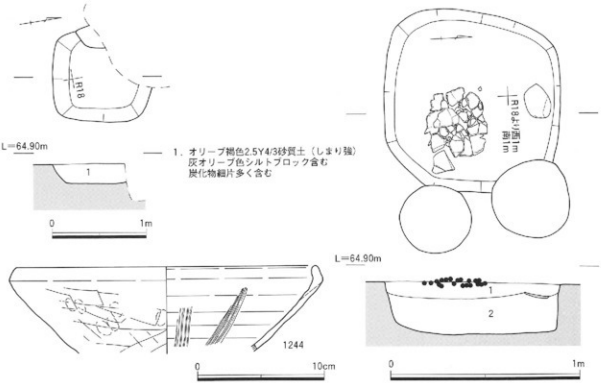
Ⅳ－3区東部南側、P17・18グリッドに位置する、長軸140cm短軸110cm深度14cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN70°Wを向く。断面は逆台形状で、底面は西に下がる。埋土は1層である。

遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具、須恵器杯、土師質土器杯・擂鉢・煮炊具・羽釜（内耳ほか）・鍋・甕、須恵質土器甕（東播系）が出土。

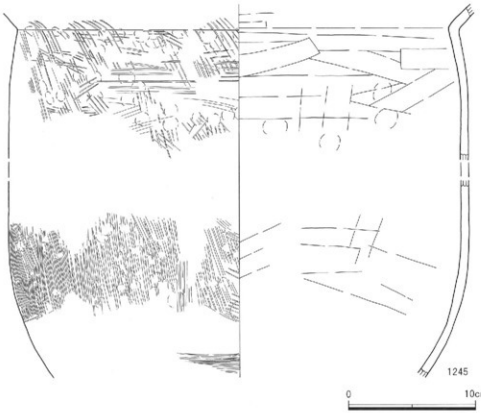
1246は土師質土器杯の底部。底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩と緑雲母を含む。



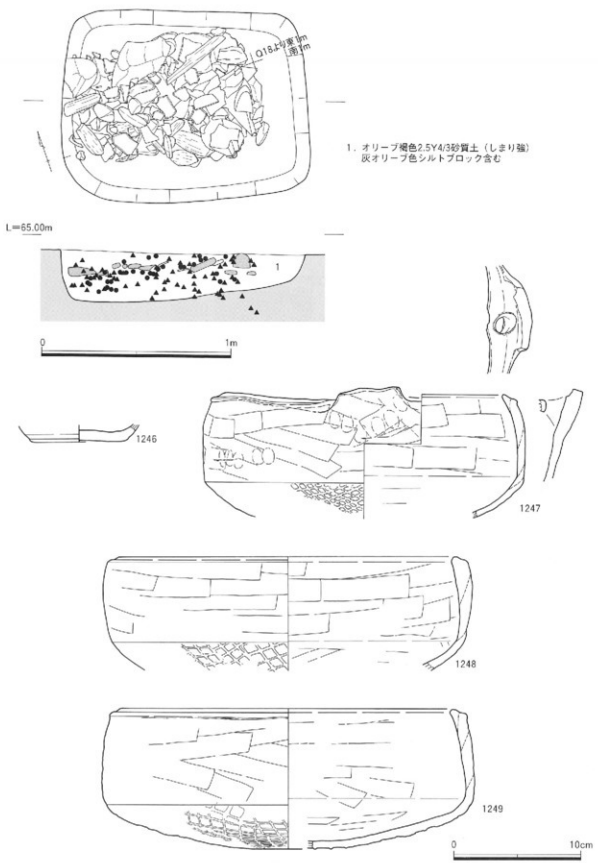
第701図　Ⅳ地区SK1360遺構・遺物実測図



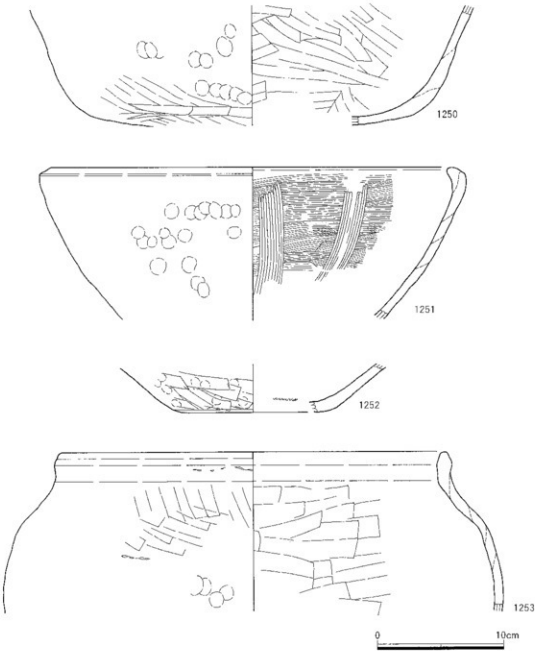
第702図　Ⅳ地区SK1371遺構・遺物実測図



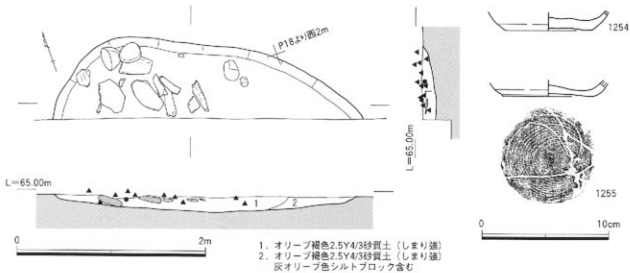
第703図　Ⅳ地区SK1373遺構・遺物実測図



第704図　Ⅳ地区SK1376遺構・遺物実測図(1)



第705図　Ⅳ地区SK1376遺物実測図(2)



第706図　Ⅳ地区SK1378遺構・遺物実測図

1247は内耳付きの土師質土器羽釜。鍔部は退化して低い凸帯状を呈し、折り曲げ技法で作る。口縁と鍔部との間に焼成前穿孔を施し、外側の鍔部を拡張して把手部を作る。体部内外面に横位の板ナデ、底部外面に格子タタキを施す。1248・1249は土師質土器羽釜。鍔部の退化著しく、口縁と近接する。体部内外面に横位の板ナデ、底部外面に目の粗い格子タタキを施す。3点とも胎土はごく粗い。1250は土師質土器鍋の下半部。底部外面と内面に板ナデを施す。

1251は土師質土器擂鉢の上半部。口縁端部を内側に拡張する。体部外面に指頭圧痕を残し、内面にヨコハケのち擂目を施す。1252は土師質土器擂鉢の下部。体部外面板ナデ、内面磨耗により辛うじて擂目が確認できる。外面に煤付着。1253は土師質土器甕。口縁が肥厚し、端部に向けて細る。体部外面斜位板ナデ、内面横位の板ナデを施す。Ⅳ地区SK1359出土の1239と同型である。

遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

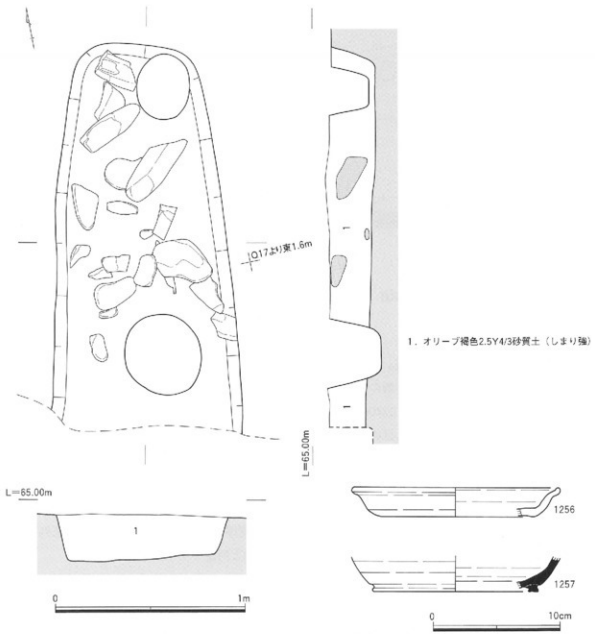
土坑378号（Ⅳ地区　SK1378）（第706図）

Ⅳ－3区東部南端、O・P17グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西330cm南北検出長85cm深度17cmを測る不整円形または楕円形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層。遺物は土師器煮炊具、土師質土器杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切り）・煮炊具、溶解炉、鉄滓が出土。1254・1255は土師質土器杯の底部。回転台成形で、1255は底部に回転糸切り痕を残す。

土壙墓123号（Ⅳ地区　ST1123）（第707図）

Ⅳ－3区東部南側、P・Q17グリッドに位置し、南は撹乱に切られる。長軸残存長215cm短軸100cm深度26cmを測る不整な隅丸長方形の土壙墓。主軸はN9°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。10～40cm大の礫が散在して出土。

遺物は土師器片（赤彩ほか）・皿・煮炊具、須恵器片・杯、土師質土器片・煮炊具（格子タタキ）が出土。1256は土師器皿。口縁端部を内側に小さく折り返し、1条の沈線を作る。内面に赤彩を施す。胎



第707図　Ⅳ地区ST1123遺構・遺物実測図

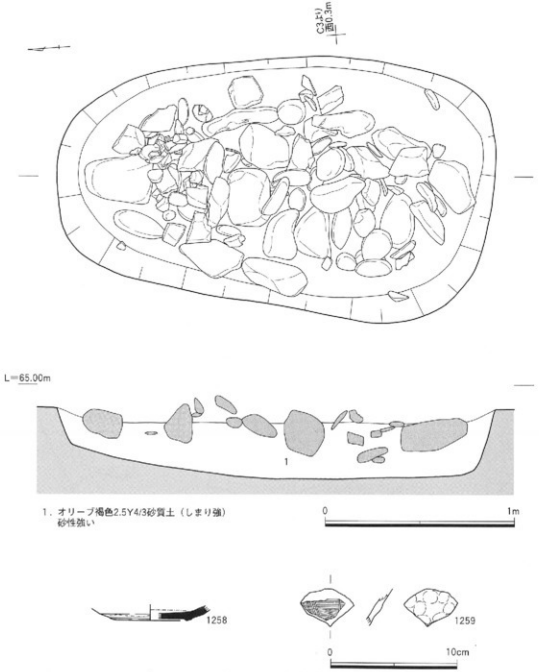
土に結晶片岩と絹雲母を含み、絹雲母が非常に目立つ。1257は須恵器杯の下半部。8世紀後半頃か。

遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀後半前後と考えられる。

集石遺構8号（Ⅳ地区　SU1008）（第708図）

Ⅳ－3区西部南側、B・C2グリッドに位置する、長軸230cm短軸128cm深度29cmを測る不整な楕円形の集石土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。埋土上位で5～40cm大の礫が多量に出土。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器擂鉢・煮炊具脚部、須恵質土器甕、陶器皿、鉄滓が出土。1258は瀬戸美濃系陶器皿

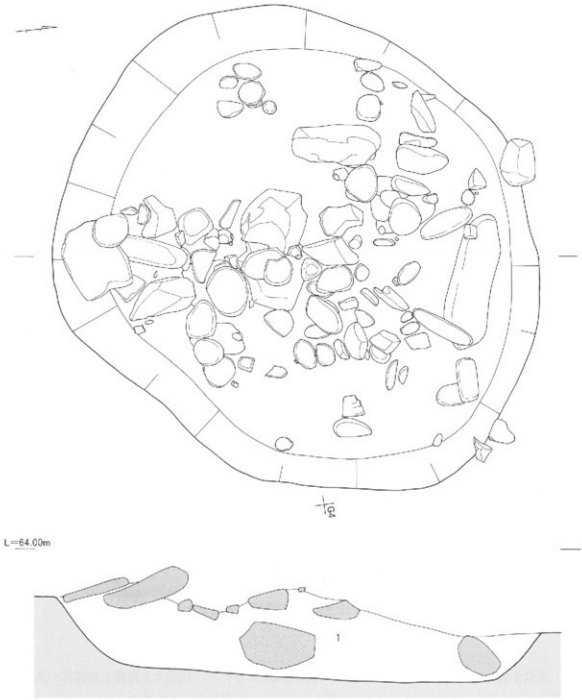


第708図　Ⅳ地区SU1008遺構・遺物実測図

の底部。灰釉を施し、内面釉剥ぎ、外面露胎。16世紀代とみられる。1259は土師質土器擂鉢の体部片。外面に指頭圧痕を残し、内面ヨコハケのち擂目を施す。15～16世紀代とみられる。

集石遺構９号（Ⅳ地区　SU1009）（第709図）

Ⅳ－３区西部北側、F・G３グリッドに位置する、長軸278cm短軸238cm深度46cmを測る不整円形の集石土坑。断面は逆台形状で、埋土は１層である。10～70cm大の礫が出土する。遺構中央に集中する傾向があるが、配置に規則性は見いだせない。遺物は土師質土器片・脚部が出土。



第709図　Ⅳ地区SU1009遺構実測図

集石遺構10号（Ⅳ地区　SU1010）（第710～714図）

Ⅳ－３区西部北端、F・G４グリッドに位置する、長軸325cm短軸260深度55cmを測る不整形の集石土坑。断面皿状で、埋土は１層。埋土上位で５～30cm大の礫が多量に出土。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器杯・脚部、備前陶器擂鉢・壺・甕、染付皿、鉄滓、砂岩製茶臼が出土。

1260は土師質土器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕のち板目痕を残す。1261は染付皿の下半部。底部外面は碁笥底。底部内面にアラベスクと梵字、体部外面に渦状唐草を描く。器形は小野分類Ｃ群、文様はＢ１群Ⅷ類に相当し、15世紀後葉～16世紀前半の年代が与えられる。

1262～1265は備前焼。1262は擂鉢。体部外面中位に櫛目原体による擂痕を残す。重根編年ⅣＢ－１期に相当し、15世紀前葉の年代が与えられる。1263は壺の上半部。口縁端部を小さな玉縁に作る。重根編年ⅣＢ－１期前後。1264は壺で、上部と体部中位を欠く。肩部に櫛描の波状文と直線文を施す。概ねⅣ期、15世紀代前後とみられる。1265は甕。上部を欠く。15世紀頃とみられる。

1266は砂岩製茶臼の下臼。８分画劃溝12条を施す。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀代と考えられる。

集石遺構11号（Ⅳ地区　SU1011）（第715図）

Ⅳ－３区西部北側、F６グリッドに位置する、長軸92cm短軸90cm深度40cmを測る円形の集石土坑。断面は逆台形状で、埋土は１層。５～40cmの礫が多量に出土するが、配置に規則性は見いだせない。遺物は須恵器片が出土。

集石遺構12号（Ⅳ地区　SU1012）（第716図）

Ⅳ－３区中央部南側、T７・８グリッドに位置する。検出面より24～34cm上で、長軸50cm短軸28cmの範囲に５～20cm大の礫が集中。遺構の掘り込みはみられない。遺物は土師器片、須恵器片が出土。

集石遺構13号（Ⅳ地区　SU1013）（第717図）

Ⅳ－３区中央部南端、T７グリッドに位置する。検出面より17～28cm上で、長軸45cm短軸40cmの範囲に10～20cm大の礫が集中する。遺構の掘り込みはみられない。遺物は土師器片が出土。

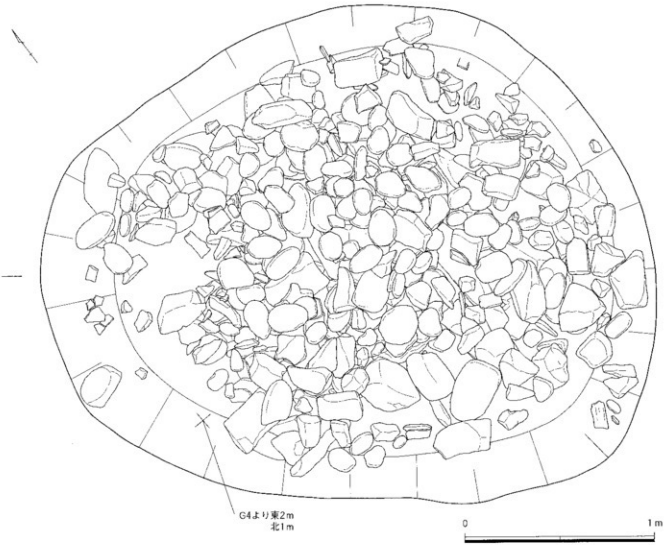
集石遺構14号（Ⅳ地区　SU1014）（第718・719図）

Ⅳ－３区中央部南端、T７グリッドに位置する。検出面より８～28cm上で、長軸91cm短軸84cmの範囲に５～30cm大の礫が集中。集石下には深度18cm、断面皿状の掘り込みを伴う。埋土は１層。

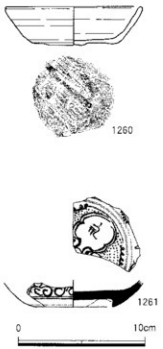
遺物は礫に混じって土師器煮炊具、須恵器片、土製鋳型（鍋・鍋先）、溶解炉壁が出土。1267～1269は土製鋳型。1267は鍋の鋳型で、体部上位か。内面に土真土が残存。1268は鍋とみられる鋳型で、部位不明。内面に土真土残存。1269は鍋先鋳型の上型上部。湯口を設ける。外面に「・」状の記号を２ヵ所残す。上端面に煤付着。1270は溶解炉壁。体部下位とみられ、上端は羽口の取り付け部と考えられる。

集石遺構15号（Ⅳ地区　SU1015）（第720・721図）

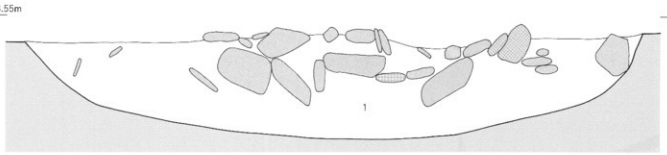
Ⅳ－３区中央部、Ｂ９グリッドに位置する、長軸128cm短軸83cm深度11cmを測る隅丸長方形の集石土坑。断面逆台形状で、埋土は１層。10～30cm大の礫が多量に出土するが、配置に規則性は見いだせない。



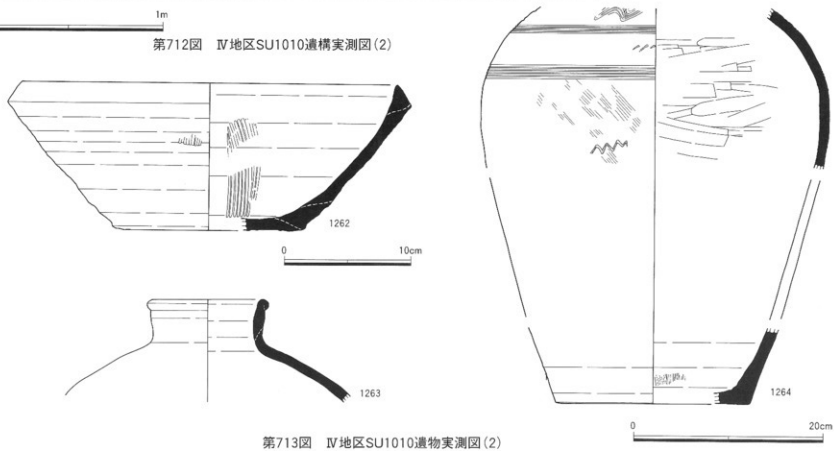
第710図　Ⅳ地区SU1010遺構実測図(1)



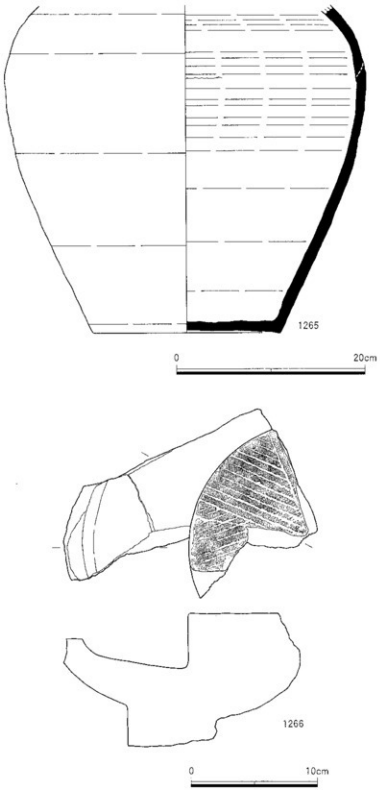
第711図　Ⅳ地区
SU1010遺物実測図(1)



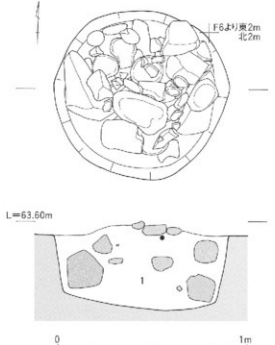
第712図　Ⅳ地区SU1010遺構実測図(2)



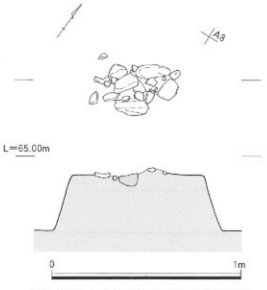
第713図　Ⅳ地区SU1010遺物実測図(2)



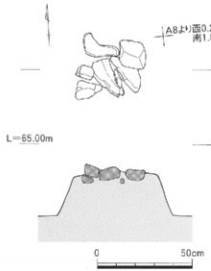
第714図　Ⅳ地区SU1010遺物実測図(3)



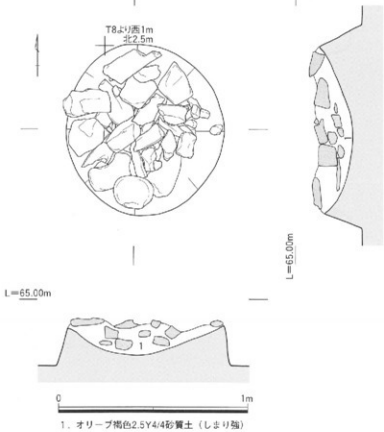
第715図　Ⅳ地区SU1011遺構実測図



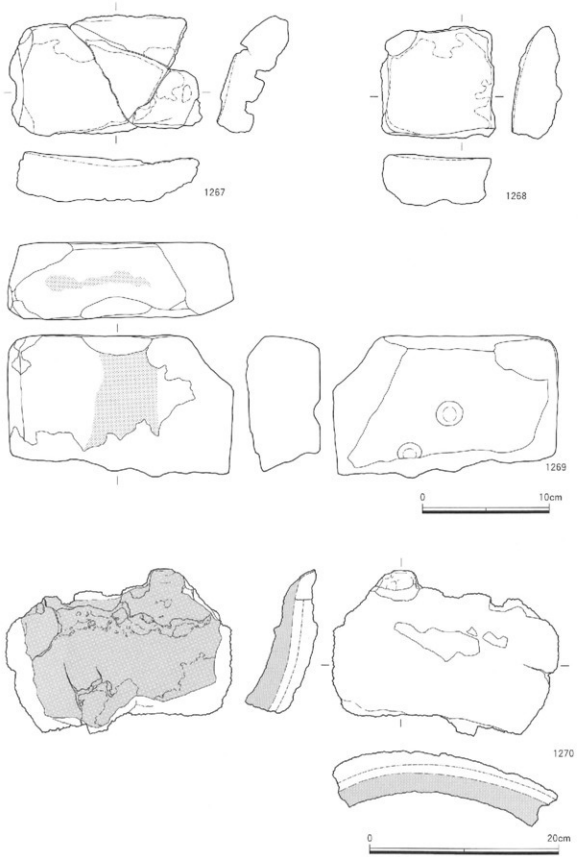
第716図　Ⅳ地区SU1012遺構実測図



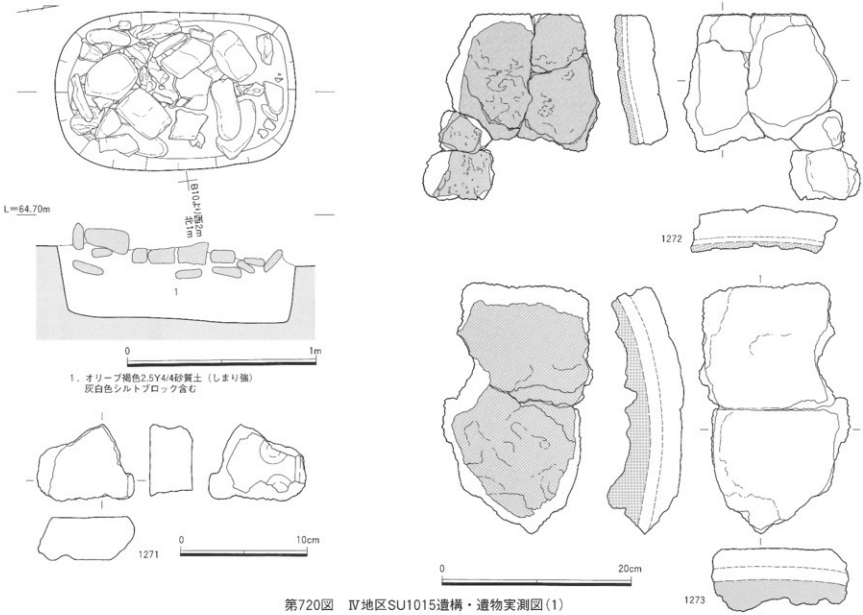
第717図　Ⅳ地区SU1013遺構実測図



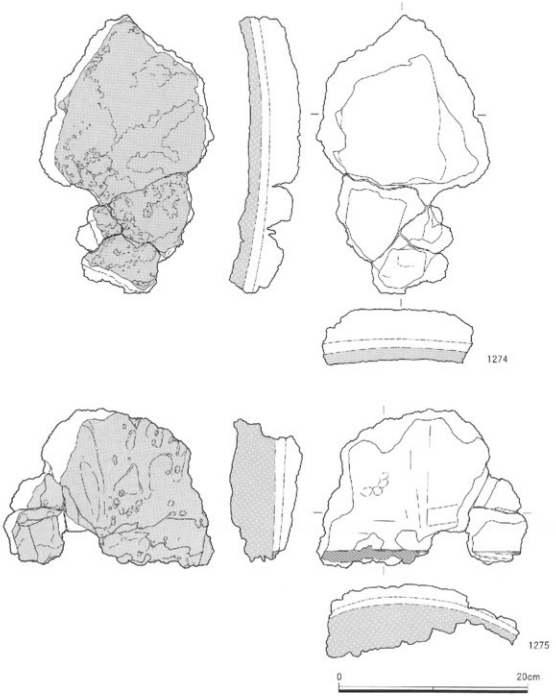
第718図　Ⅳ地区SU1014遺構実測図



第719図　Ⅳ地区SU1014遺物実測図

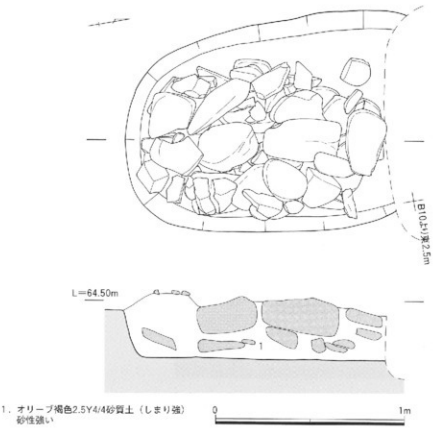


第720図　Ⅳ地区SU1015遺構・遺物実測図(1)



第721図　Ⅳ地区SU1015遺物実測図(2)

遺物は礫に混じって土製鋳型（鋤先）、溶解炉壁、骨片が出土。1271は鋤先鋳型の右側中位とみられる。外面に「・」状の記号2ヵ所、「丨」状の記号1ヵ所あり。1272～1275は溶解炉壁。1272・1273は体部中位とみられる。1272は上端が平坦面で、継目である。1273は中央に水平方向の亀裂がみられる。成形時の粘土継目か。1274は体部の中位か。1275は体部の下位か。下端継目にクライ残存。



第722図　Ⅳ地区SU1016遺構実測図

集石遺構16号（Ⅳ地区　SU1016）（第722図）

Ⅳ－３区中央部、A・B10グリッドに位置し、北は撹乱に切られる。長軸残存長137cm短軸10cm深度33cmを測る楕円形の集石土坑。断面は逆台形状で、埋土は１層である。10～40cm大の礫が多量に出土するが、配置に規則性は見いだせない。遺物は土師質土器煮炊具、鉄製品片が出土。

集石遺構17号（Ⅳ地区　SU1017）（第723図）

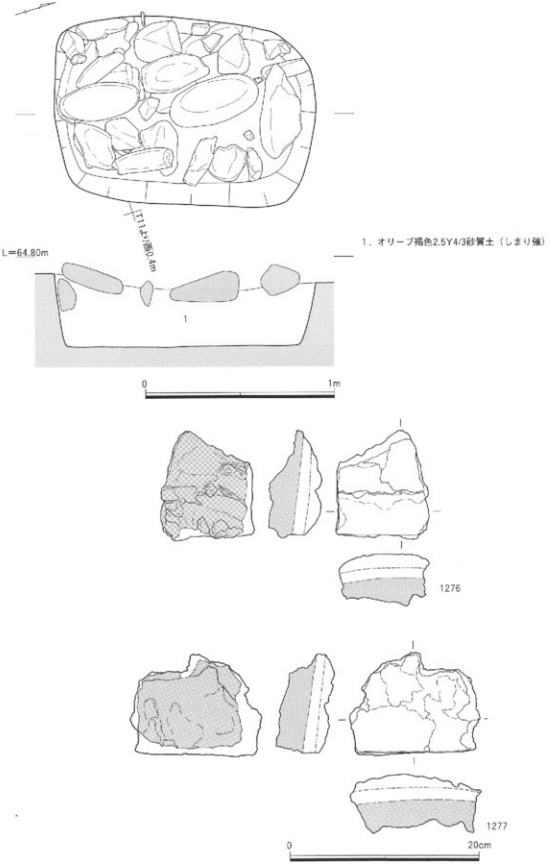
Ⅳ－３区中央部南側、S・T10グリッドに位置する、長軸137cm短軸98cm深度38cmを測る隅丸長方形の集石土坑。断面は逆台形状で、埋土は１層である。検出面～埋土上位にかけて10～50cm大の礫が出土する。配置に規則性は見いだせない。

遺物は須恵器片、土師質土器片・皿（静止糸切り）、須恵質土器甕、溶解炉壁、鉄製品片が出土。1276・1277は溶解炉壁で、体部下位とみられる。下端は平坦面で、継目である。1276は左側に継目とみられる平坦面がある。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

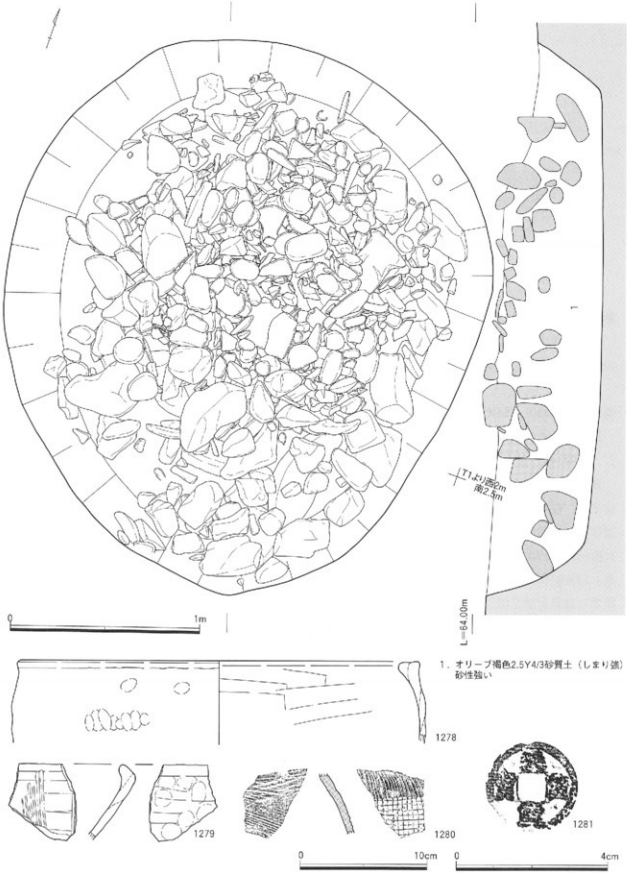
集石遺構18号（Ⅳ地区　SU1018）（第724図）

Ⅳ－３区東部中央、S20グリッドに位置する、長軸292cm短軸258cm深度56cmを測る不整円形の集石土坑。断面逆台形状で、埋土は１層。５～40cm大の礫が多量に出土するが配置に規則性はない。

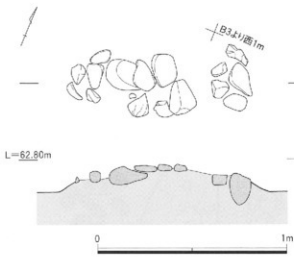
遺物は須恵器甕、土師質土器杯・擂鉢・煮炊具・煮炊具脚部・羽釜（内耳ほか）、瓦質土器甕（亀山



第723図　Ⅳ地区SU1017遺構・遺物実測図



第724図　Ⅳ地区SU1018遺構・遺物実測図



第725図　Ⅳ地区SU1019遺構実測図

系）、石臼、鉄滓、銭貨が出土。1278は土師質土器羽釜の上半部。鍔部は退化する。折り曲げ技法で作る。口縁は内側に延びる。内面に横位の板ナデを施す。1279は土師質土器擂鉢の上部片。口縁端部を内上方に拡張する。内面横位の板ナデのち擂目を施す。1280は亀山系瓦質土器甕の体部片。外面上位にタテハケ、下位に格子タタキ、内面にヨコハケを施す。炭素吸着は外面のみ良好で、内面吸着なし。草戸編年Ⅳ期後半、15世紀後葉～16世紀初頭頃とみられる。1281は銅銭で、天聖元寶の篆書体。北宋銭で、1023年初鋳。遺構の年代は、出土遺物から概ね16世紀頃と考えられる。

集石遺構19号（Ⅳ地区　SU1019）（第725図）

Ⅳ－3区東部北端、A2グリッドに位置する。検出面直上で、長軸70cm短軸40cmの範囲に10～20cm大の礫が集中する。遺構の掘り込みを伴わない。遺物は土師質土器煮炊具・羽釜が出土。

溝37号（Ⅳ地区　SD1037）（第726図）

Ⅳ－3区西端部南端～Ⅳ－2区東端部、B・C19グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。検出長17.2m幅140cm深度42cmを測る。主軸はN3°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は2層に分層。

遺物は土師質土器煮炊具・鍋・羽釜、備前焼陶器片・甕、肥前系陶器皿・鉢・染付碗、瀬戸美濃系天目茶碗、砂岩製茶臼が出土。1282は砂岩製茶臼。上臼で、側面に方形の飾り枠を施した横打ち込み孔を設ける。1283～1286は肥前系で、1283・1284は陶器皿。1283は底部内面に砂目痕を残し、高台内側に離れ砂付着。17世紀前半頃か。1284は16世紀末頃と考えられる。1285は染付碗の下半部。畳付に離れ砂付着。17世紀代か。1286は陶器鉢の下半部。白泥を施す。底部内面の釉剥離、使用によるものか。17世紀後半～18世紀前半頃か。1287は土師質土器鍋の上部。浅い器形で、岡本系焙烙の可能性あり。

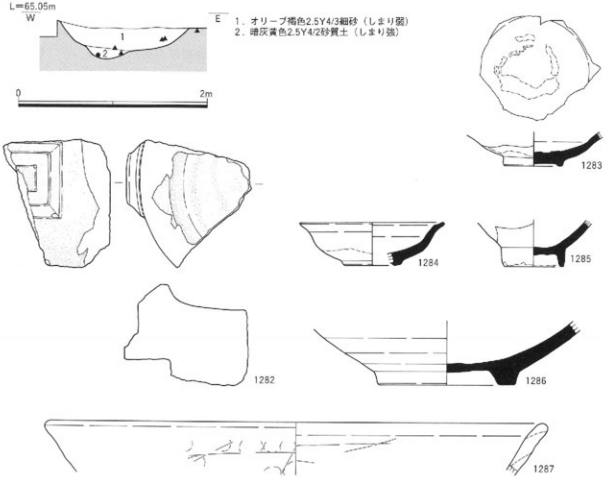
遺構の年代は、出土遺物から17世紀代前後と考えられる。

溝54号（Ⅳ地区　SD1054）（第727図）

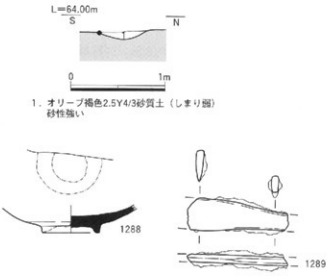
Ⅳ－3区西端部南側、C19・20グリッドに位置し、西はSD1037に切られ以西には延びない。検出長6.4m幅52cm深度10cmを測る。主軸はN74°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・煮炊具、陶器皿、鉄楔・刀子が出土。1288は陶器皿。肥前系か。底部内面に蛇ノ目釉剥ぎを施す。釉に貫入を伴う。1289は鉄製の刀子。遺構の年代は、出土遺物から近世とみられるが詳細時期不明。

溝59号（Ⅳ地区　SD1059）（第728図）

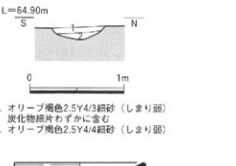
Ⅳ－3区西部南側、B1～3グリッドに位置する。全長12.4m幅60cm深度15cmを測る。主軸はN84°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は2層に分層できる。遺物は須恵器片、土師質土器片・煮炊具、陶器皿、磁器片が出土。1290は瀬戸美濃系陶器皿の上半部。灰白色の素地で、鉄釉を掛ける。17世紀代か。



第726図　Ⅳ地区SD1037遺構・遺物実測図



第727図　Ⅳ地区SD1054遺構・遺物実測図



第728図　Ⅳ地区SD1059遺構・遺物実測図

金属製品　0　5cm

その他の遺物　0　10cm

溝61号（Ⅳ地区　SD1061）（第729図）

Ⅳ－３区中央部南側、T７グリッドに位置し、北は撹乱に切られる。検出長3.4m幅34cm深度５cmを測る。主軸はN15°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、埋土は１層。遺物は青磁碗、鉄製刀子・楔が出土。1291は鉄製の刀子。折損する。

溝63号（Ⅳ地区　SD1063）（第730図）

Ⅳ－３区中央部南側、T～B８グリッドに位置する。全長9.5m幅48cm深度６cmを測る。主軸はN15°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、埋土は１層。遺物は須恵器片、土師質土器片・煮炊具、溶解炉、鉄製品片、鉄滓、鉄楔か・火打ち金が出土。1292は鉄製の火打ち金。山形を呈し、下辺が使用により凹む。

溝74号（Ⅳ地区　SD1074）（第731図）

Ⅳ－３区西部北側、G・H１～５グリッドに位置する。全長19.1m幅110cm深度26cmを測る。主軸はN76°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は２層。SD1071～1076は50～80cmの間隔をおいて並ぶ東西方向の溝である。北に向かって下がる緩斜面に作られた耕作に伴う溝と考えられる。遺物は須恵器片、土師質土器片・羽釜、青磁碗、鉄鎌が出土。1293は鉄製の鎌とみられる。

溝78号（Ⅳ地区　SD1078）（第732・733図）

Ⅳ－３区中央部南側、S～B８・９グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。検出長14.4m幅165cm深度14cmを測る。主軸はN14°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は１層。

遺物は土師器片・煮炊具・甕・竈、須恵器片・杯・皿・蓋・甕・溶解炉、羽口、土製錘型（鋤先）、鉄製品片、板状鉄製品、鉄滓が出土。

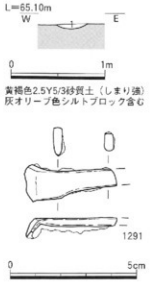
1294は須恵器蓋。低平な器形で、天井部中央を欠く。1295は須恵器皿。体部外面に部分的に自然釉付着。８世紀後半とみられる。1296・1297は須恵器杯。1297は平城Ⅵ～平安Ⅰ期（中）頃とみられ、８世紀後葉～９世紀初頭の年代が与えられる。1298は土師器竈。焚口の側部とみられる。体部外面タテハケ、内面板ナデを施す。胎土は粗く、結晶片岩と砂岩を含む。1299は土師器甕の上部。口縁端部を上方にわずかに拡張する。体部外面タテハケ、口縁内面ヨコハケ、体部内面横位の板ナデを施す。1300は土製錘型。鋤先下型の右側下位とみられ、内面に高さ1.7cmの縁をもつ。内面にユビナデの痕跡が確認できる。1301は分銅形を呈する鉄製品で、用途不明。

不明遺構１号（Ⅳ地区　SX1001）（第734図）

Ⅳ－３区西部南端、R～A４～10グリッドに位置する、検出長27.3m幅710cm深度22cmを測る不整形の浅い落ち込み。断面は浅いレンズ状で、埋土は１層である。

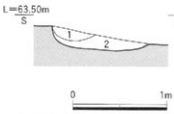
遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・杯・皿、製塩土器、須恵器片・杯・蓋・甕が出土しているが、小片が多い。1302は土師器杯の上半部、1303は皿の口縁部。ともに回転台成形である。1304は須恵器蓋の口縁部。1305は須恵器杯の上半部。1306は製塩土器の上半部。外面に指頭圧痕、内面に布目圧痕を残す。胎土は粗く、泥岩を含むとみられる。

遺構の年代は、出土遺物から概ね８世紀後半～９世紀頃と考えられる。

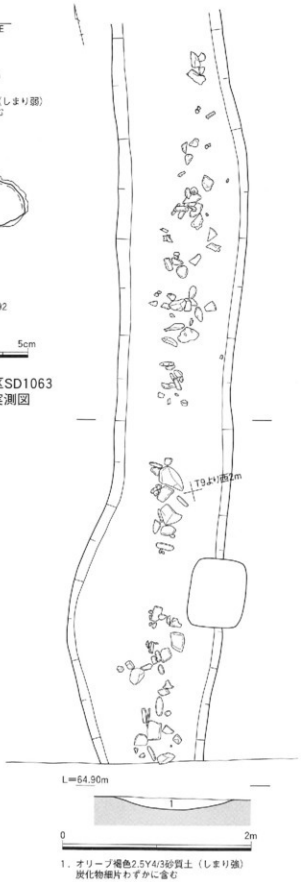


第729図　Ⅳ地区SD1061
遺構・遺物実測図

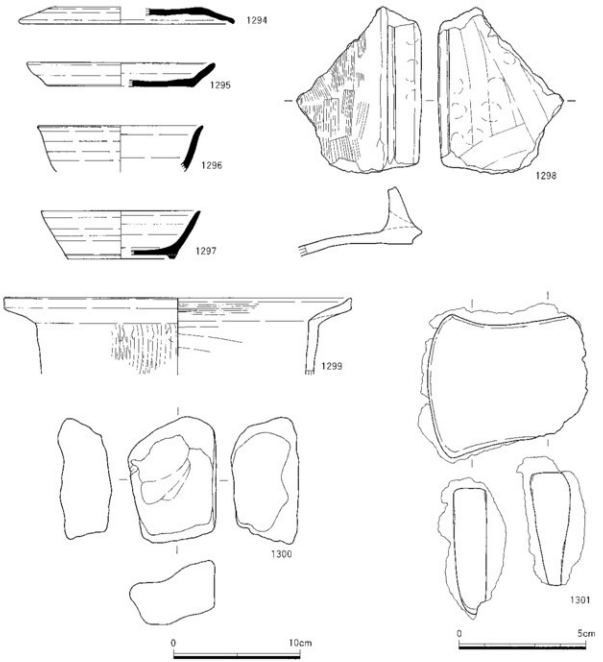
第730図　Ⅳ地区SD1063
遺構・遺物実測図



第731図　Ⅳ地区SD1074遺構・遺物実測図



第732図　Ⅳ地区SD1078遺構実測図



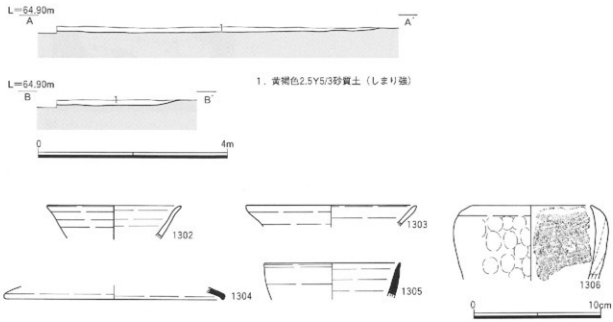
第733図　Ⅳ地区SD1078遺物実測図

小穴394号（Ⅳ地区　SP1394）（第735図）

Ⅳ－3区中央部南壁、S11グリッドに位置する、一辺78cm深度50cmを測る隅丸方形の小穴。断面はU字状で、埋土は4層に分層できる。

遺物は土師器片、土師質土器片、青磁碗、鉄滓、角礫凝灰岩製石臼（上臼）が出土。1307は天霧産の角礫凝灰岩製石臼（上臼）。中心に近い位置に供給孔が貫通する。下面は磨耗により溝目が確認できない。中央に芯棒受け孔を穿つ。側面に2ヵ所の横打ち込み孔を有する。一方は下面に露出しており使用不能であることから、新たに横打ち込み孔を設けたものと考えられる。

遺構の年代は、出土遺物から15～16世紀頃と考えられる。



第734図　Ⅳ地区SX1001遺構・遺物実測図

小穴419号（Ⅳ地区　SP1419）（第736図）

Ⅳ－３区西部南側、D20グリッドに位置する、径30cm深度24cmを測る円形小穴。出土遺物は１点のみで、1308は備前焼の陶器四耳壺の肩部。外面に耳部貼り付け、自然釉付着。概ね16世紀頃とみられる。

小穴462号（Ⅳ地区　SP1462）（第737図）

Ⅳ－３区西部南側、B２・３グリッドに位置する、一辺135cm深度61cmを測る隅丸長方形の小穴。

遺物は土師質土器鍋、陶器皿が出土。1309は瀬戸美濃系の陶器皿。内外面に灰釉を施し、底部内外面は露胎。貫入を伴う。16世紀代とみられる。1310は土師質土器鍋。浅い焙烙型の器形で、中世末期の関本系焙烙に近似する。体部外面ユビオサエのち横位の板ナデ、底部外面・体部内面は横位の板ナデ、底部内面ヨコハケを施す。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

小穴475号（Ⅳ地区　SP1475）（第738図）

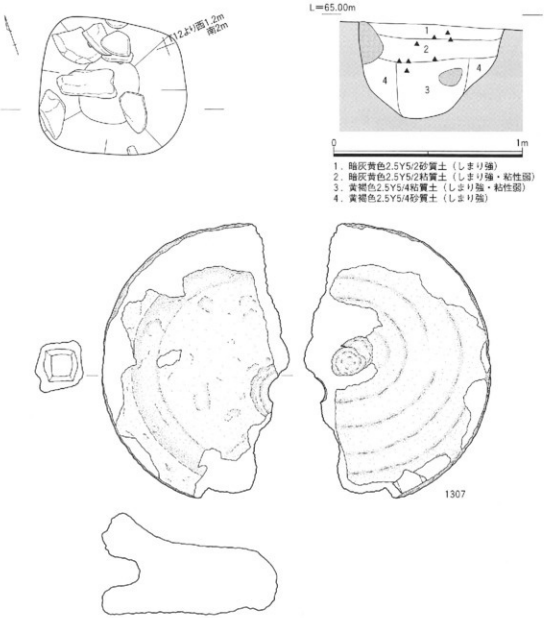
Ⅳ－３区西部南側、B３・４グリッドに位置する、径43cm深度40cmを測る円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1311は青銅製小柄の茎部。

小穴515号（Ⅳ地区　SP1515）（第739図）

Ⅳ－３区西部南端、T・A４グリッドに位置する、径35cm深度８cmを測る不整円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1312は土師器杯の下半部。底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。

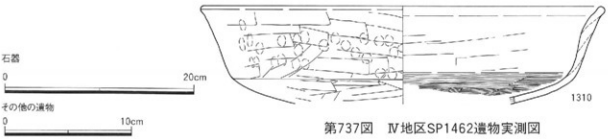
小穴524号（Ⅳ地区　SP1524）（第740図）

Ⅳ－３区西部南寄り、C５グリッドに位置する、一辺50cm深度32cmを測る隅丸方形の小穴。遺物は土



第735図　Ⅳ地区SP1394遺構・遺物実測図

第736図　Ⅳ地区SP1419遺物実測図



第737図　Ⅳ地区SP1462遺物実測図

師質土器片・擂鉢、東播系須恵質土器擂鉢が出土。1313は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張する。内面横位の板ナデのち擂目を施す。概ね15～16世紀代とみられる。

小穴526号（Ⅳ地区　SP1526）（第741図）

Ⅳ－３区西部南寄り、Ｂ５グリッドに位置する、長径28cm深度31cmを測る楕円形の小穴。

出土遺物は１点のみで、1314は土師質土器風炉の上半部。口縁外面に段を有し、鍔部を作る。体部は直立し、上位に円孔を有する。口縁～外面に非常に緻密なミガキを施す。部分的に炭素の付着がみられ、本来は瓦質土器であった可能性がある。坪之内分類の風炉Ⅳに相当し、16世紀代の年代が与えられる。

小穴548号（Ⅳ地区　SP1548）（第742図）

Ⅳ－３区西部中央、Ｃ６グリッドに位置する、径98cm深度30cmを測る不整円形の小穴。遺物は土師器煮炊具、土師質土器皿、溶解炉が出土。1315は土師質土器皿。回転台成形で、底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。

小穴579号（Ⅳ地区　SP1579）（第743図）

Ⅳ－３区中央部南端、Ｓ８グリッドに位置する、一辺83cm深度38cmを測る隅丸方形の小穴。

遺物は土師器皿・煮炊具・甕・竈、製塩土器、須恵器杯・皿・甕、土師質管状土錘、鉄滓が出土。

1316は土師器皿、1317は須恵器皿。ともに形状が酷似している。1317は酸化炎焼成されることから、土師器の可能性がある。胎土は1316が良好で、1317は粗い。1318は無高台の須恵器杯。８世紀後半～９世紀前半頃か。1319は土師器甕。口縁端部を上方に拡張。体部外面タテハケ、口縁内面ヨコハケを施す。1320は製塩土器。外面に指頭圧痕、内面に布の引き抜き痕を残す。胎土は粗い。1321は土師質管状土錘。胎土に結晶片岩と緑雲母を含む。

遺構の年代は、出土遺物から概ね８世紀後半～９世紀代と考えられる。

小穴581号（Ⅳ地区　SP1581）（第744図）

Ⅳ－３区中央部南端、Ｓ８・９グリッドに位置する、一辺95cm深度36cmを測る隅丸長方形の小穴。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・杯・蓋、凝灰岩製砥石が出土。1322は凝灰岩製砥石。３面を使用し、部分的に敲打痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね８～９世紀頃と考えられる。

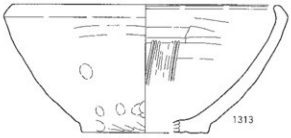
小穴593号（Ⅳ地区　SP1593）（第745図）

Ⅳ－３区中央部南寄り、A10グリッドに位置する、径45cm深度15cmを測る不整円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1323は土師質土器羽釜。鍔部は折り曲げ技法で作る。内面に横位の板ナデを施す。14～15世紀前半頃とみられる。

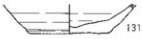
小穴608号（Ⅳ地区　SP1608）（第746図）

Ⅳ－３区中央部南側、S10グリッドに位置する、長径85cm深度52cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器片、須恵器片・皿・甕、土師質土器片・杯・擂鉢、結晶片岩製砥石が出土。1324は結晶片岩製砥石。２面を使用。

第738図　Ⅳ地区SP1475遺物実測図

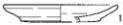


第740図　Ⅳ地区SP1524遺物実測図

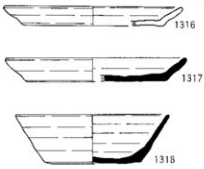


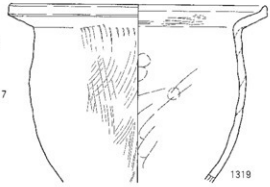
第739図　Ⅳ地区
SP1515遺物実測図

第741図　Ⅳ地区SP1526遺物実測図

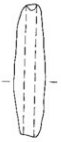


第742図　Ⅳ地区
SP1548遺物実測図

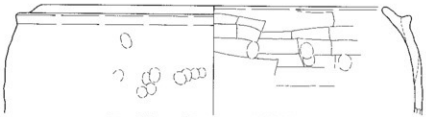




第743図　Ⅳ地区SP1579遺物実測図



第744図　Ⅳ地区
SP1581遺物実測図



第745図　Ⅳ地区SP1593遺物実測図

金属製品・土師
0　5cm

その他の遺物
0　10cm

小穴625号（Ⅳ地区　SP1625）（第747図）

Ⅳ－３区中央部南側、S11グリッドに位置する、径35cm深度16cmを測る不整円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1325は土師器甕の上半部。口縁端部を上方に拡張する。体部外面ユビオサエのちタテハケ、頸部内面ヨコハケ、体部内面横位の板ナデを施す。９世紀前後か。

小穴631号（Ⅳ地区　SP1631）（第748図）

Ⅳ－３区中央部南端、S11グリッドに位置する、径70cm深度20cmを測る円形の小穴。遺物は土師質土器片、青磁碗が出土。1326は青磁碗の底部。底部内面に蛇ノ目釉剥ぎ、外面円形の釉剥ぎを施す。素地はやや陶器質。15～16世紀代とみられる。

小穴633号（Ⅳ地区　SP1633）（第749図）

Ⅳ－３区中央部南端、S11グリッドに位置する。一辺110cm深度31cmを測る隅丸長方形の小穴。

遺物は土師器片（赤彩ほか）、土師質土器皿・杯、近世染付皿、羽口、鉄製品片、鉄釘、結晶片岩製砥石が出土。1327は土師質土器皿の底部。底部外面に静止糸切り痕を残す。1328は結晶片岩製砥石。２面を使用。1329は鉄釘。頭部を叩いて延ばし、折り曲げて頭部を作る。遺構の年代は、出土遺物から概ね16～17世紀前半頃と考えられる。

小穴644号（Ⅳ地区　SP1644）（第750図）

Ⅳ－３区中央部南端、S12グリッドに位置する。径45cm深度18cmを測る円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1330は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗。鉄釉を施す。時期不詳。

小穴650号（Ⅳ地区　SP1650）（第751図）

Ⅳ－３区中央部南端、R・S12グリッドに位置する。径63cm深度36cmを測る円形の小穴。遺物は土師器杯・煮炊具・甕、須恵器杯、土師質土器片が出土。1331は土師器甕の上部。口縁端部をやや上方に拡張。外面タテハケ、口縁内面ヨコハケ、体部内面横位の板ナデを施す。胎土に結晶片岩を含むとみられる。８～９世紀代頃と考えられる。

小穴662号（Ⅳ地区　SP1662）（第752図）

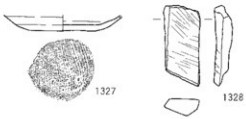
Ⅳ－３区中央部南端、Q・R13グリッドに位置する、径38cm深度36cmを測る円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・甕が出土。1332は土師器甕の口縁部。口縁端部を上方にわずかに拡張。胎土は粗く、砂岩と絹雲母を含む。８～９世紀代とみられる。

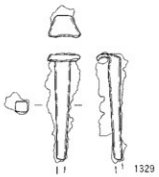
小穴701号（Ⅳ地区　SP1701）（第753図）

Ⅳ－３区東部南側、Q17グリッドに位置する、径40cm深度27cmを測る円形の小穴。出土遺物は１点のみで、1333は高台付土師器皿の底部。回転台成形で、内外面に稜が顕著。胎土に結晶片岩を含むとみられる。

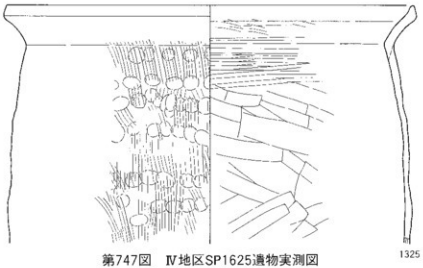
第746図　Ⅳ地区SP1608遺物実測図

第748図　Ⅳ地区SP1631遺物実測図





第749図　Ⅳ地区
SP1633遺物実測図



第747図　Ⅳ地区SP1625遺物実測図

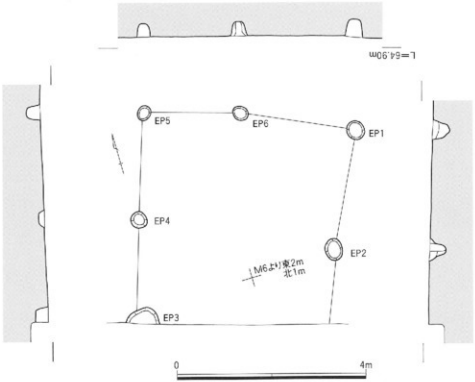
第750図　Ⅳ地区
SP1644遺物実測図

第751図　Ⅳ地区SP1650遺物実測図

第752図　Ⅳ地区SP1662遺物実測図

第753図　Ⅳ地区
SP1701遺物実測図

第754図　Ⅳ－４区第１遺構面遺構配置図



第755図　Ⅳ地区SA1027遺構実測図

Ⅳ－4区（第754図）

Ⅳ－4区は、Ⅳ地区東端に位置する調査区である。全体的に北へ向けて下がる。遺構は南半部に集中する。撹乱が目立つ。Ⅳ－3区ではSA4棟、SK52基、ST35基、SX1基、SP96基を検出。

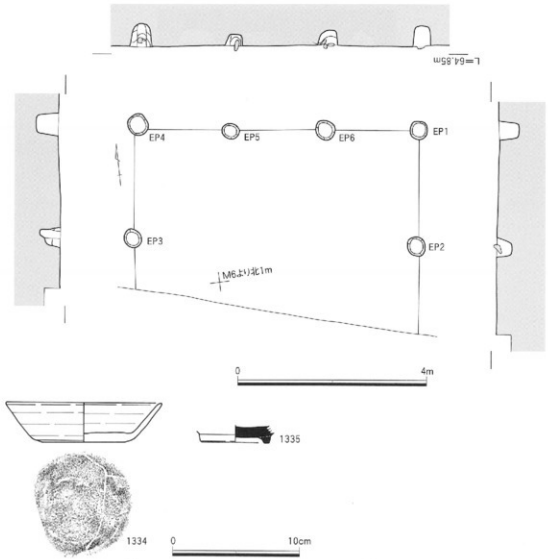
掘立柱建物27号（Ⅳ地区　SA1027）（第755図）

Ⅳ－4区西部南端、L～N5～7グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西2間（4.5m）南北2間以上（4.5m以上）床面積20.3㎡以上、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸はN71°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径35～70cm深度13～38cmを測る。断面はU字状で、EP2・6で柱痕とみられる土層を確認。

掘立柱建物28号（Ⅳ地区　SA1028）（第756図）

Ⅳ－4区西部南端、L・M5・6グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西3間（5.9m）南北2間以上（4.2m以上）床面積24.8㎡以上、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸はN75°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径40～45cm深度25～50cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3～5で柱痕とみられる土層を確認。

遺物はEP2・4から、土師質土器杯、陶器碗、羽口が出土。1334はEP4の出土遺物で、土師質土器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。古代に遡る可能性がある。1335はEP2の出土遺物で、瀬戸美濃系陶器碗の底部。灰釉を施し、貫入を伴う。畳付に板目痕を残し、外面に離れ砂付着。近世か。



第756図　Ⅳ地区SA1028遺構・遺物実測図

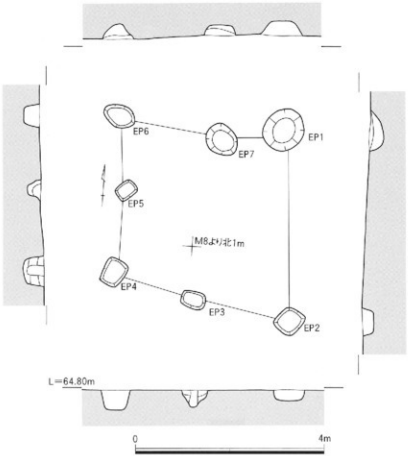
掘立柱建物29号（Ⅳ地区　SA1029）（第757図）

Ⅳ－4区西部南側、L・M7・8グリッドに位置する、東西2間（3.6m）南北2間（3.8m）床面積13.7㎡、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N3°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺45～93cm深度22～44cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3・4で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP5から鉄滓が出土。

掘立柱建物30号（Ⅳ地区　SA1030）（第758～760図）

Ⅳ－4区中央部、M・N10・11グリッドに位置する、東西2間（5.0m）南北2間（4.2m）床面積20.0㎡、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N75°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または円形で、一辺33～55cm深度22～29cm。断面は逆台形状またはU字状で、EP1～5で柱痕とみられる土層を確認。

遺物はEP1・5から、土師器杯（赤彩ほか）・甕、須恵器壺が出土。1336～1338はEP1の出土遺物



第757図　Ⅳ地区SA1029遺構実測図

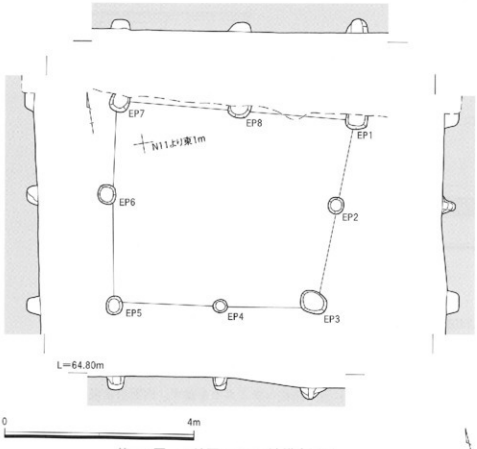
で、1336は土師器杯。底部外面に「在」字の墨書あり。1337は高台付土師器杯の底部。内外面に赤彩を施す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1338は土師器甕の上部。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。1339はEP５から出土した須恵器壺の口縁部。端部を上方に拡張する。平城Ⅵ期前後、８世紀後葉頃と考えられる。遺構の年代は、出土遺物から概ね８世紀後半頃と考えられる。

土坑396号（Ⅳ地区　SK1396）（第761図）

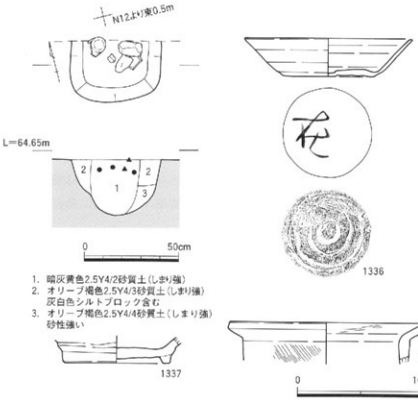
Ⅳ－４区西部南側、M８グリッドに位置する、長軸155cm短軸140cm深度14cmを測る不整な隅丸方形土坑。主軸はN80°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は１層。出土遺物は１点のみで、1340は黒色土器A類椀の上半部。内面に粗いヘラミガキを施す。内面炭素吸着良好。

土坑402号（Ⅳ地区　SK1402）（第762図）

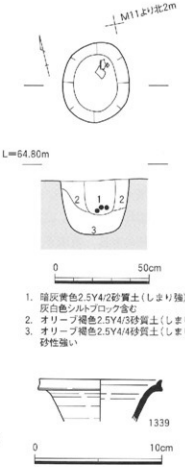
Ⅳ－４区中央部南側、M11・12グリッドに位置する、長軸305cm短軸185cm深度27cmを測る不整形土坑。主軸はN76°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は２層に分層。検出面付近で10～30cm大の礫が疎らに出土する。配置に規則性は見いだせない。出土遺物は１点のみで、1341は砂岩製台石・砥石。３面を使用し、部分的に敲打痕を伴う。



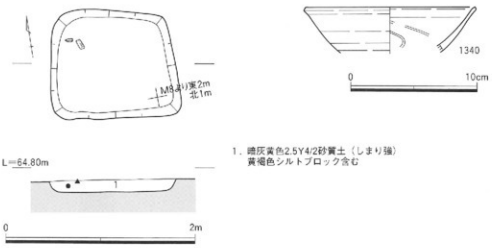
第758図　Ⅳ地区SA1030遺構実測図



第759図　Ⅳ地区SA1030 EP1遺構・遺物実測図



第760図　Ⅳ地区SA1030 EP5
遺構・遺物実測図



第761図　Ⅳ地区SK1396遺構・遺物実測図

土坑403号（Ⅳ地区　SK1403）（第763図）

Ⅳ－4区西部南側、L11・12グリッドに位置する、長軸205cm短軸100cm深度29cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN40°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は須恵器杯、黒色土器椀が出土。1342は黒色土器A類椀の上半部。内面に密な斜状ヘラミガキを施す。内面炭素吸着良好。1343は高台付の須恵器杯。8世紀中葉前後とみられる。

土坑405号（Ⅳ地区　SK1405）（第764図）

Ⅳ－4区中央部南端、K11・12グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西390cm南北検出長180cm深度32cmを測る不整な隅丸方形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層。中央東寄り地点の第1層で10～40cm大の礫が集中するが、配置に規則性は見いだせない。

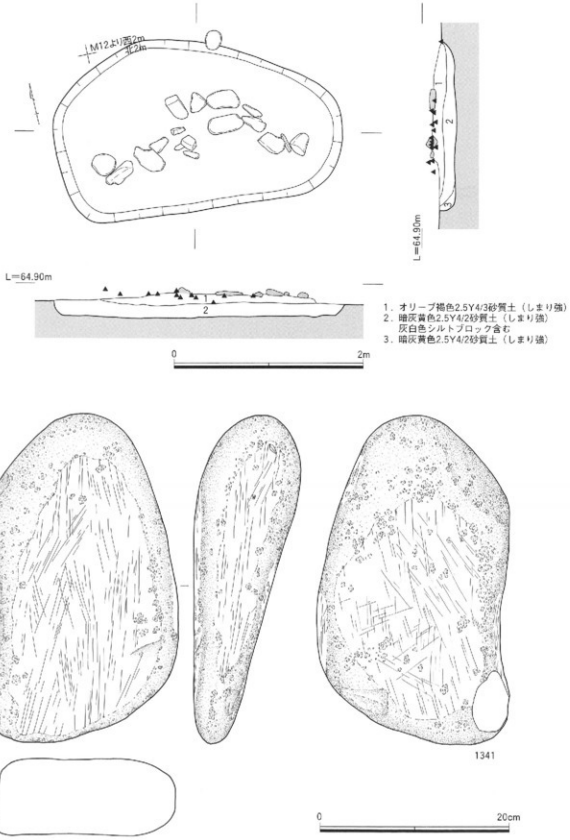
遺物は須恵器杯、土師質土器杯・煮炊具脚部・羽釜、須恵質土器甕、結晶片岩製叩石が出土。

1344は土師質土器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。古代に遡る可能性もある。1345・1346は土師質土器杯の下半部。底部外面に回転糸切り痕を残す。1346の胎土は粗く、砂岩を含む。1347は高台付須恵器杯の底部。焼成不良気味で、外面に炭素付着。1348は土師質土器羽釜の上半部。鍔部は折り曲げ技法で作る。体部外面タテハケ、内面ヨコハケのち板ナデを施す。14世紀代とみられる。1349は須恵質土器甕の底部。内外面に板ナデを施す。胎土に砂岩を含む。1350は結晶片岩製叩石。下端部に敲打痕を残し、上端に研削によって凹む。

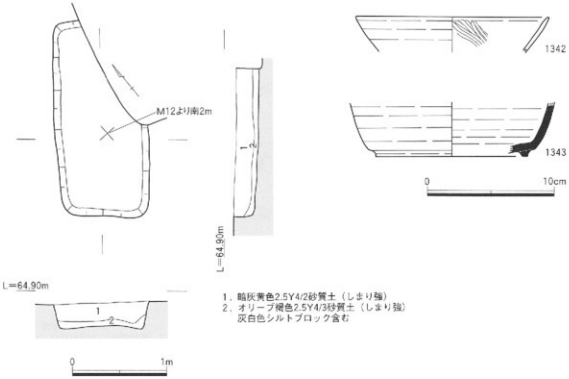
遺構の年代は、出土遺物から概ね14世紀代と考えられる。

土坑422号（Ⅳ地区　SK1422）（第765図）

Ⅳ－4区中央部、M・N14グリッドに位置する、長軸160cm短軸75cm深度25cmを測る楕円形の土坑。主軸はN15°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺物は1点のみで、1351は弥生土器甕。外面の肩部に平行タタキ、体部にタテハケ、内面下位に縦位のヘラケズリを施す。胎土は粗く、結晶片岩・絹雲母を含む。弥生時代後期末とみられる。



第762図　Ⅳ地区SK1402遺構・遺物実測図



第763図　Ⅳ地区SK1403遺構・遺物実測図

土壙墓138号（Ⅳ地区　ST1138）（第766図）

Ⅳ－4区中央部南側、L10グリッドに位置する、長軸135cm短軸85cm深度27cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN87°Wを向く。断面は方形で、埋土は2層。出土遺物は1点のみで、1352は土師器甕の体部。長胴形の体部をもつ。外面にヨコハケ・タテハケを施し、内面に斜位の板ナデを施す。胎土に砂岩と細雲母を含む。

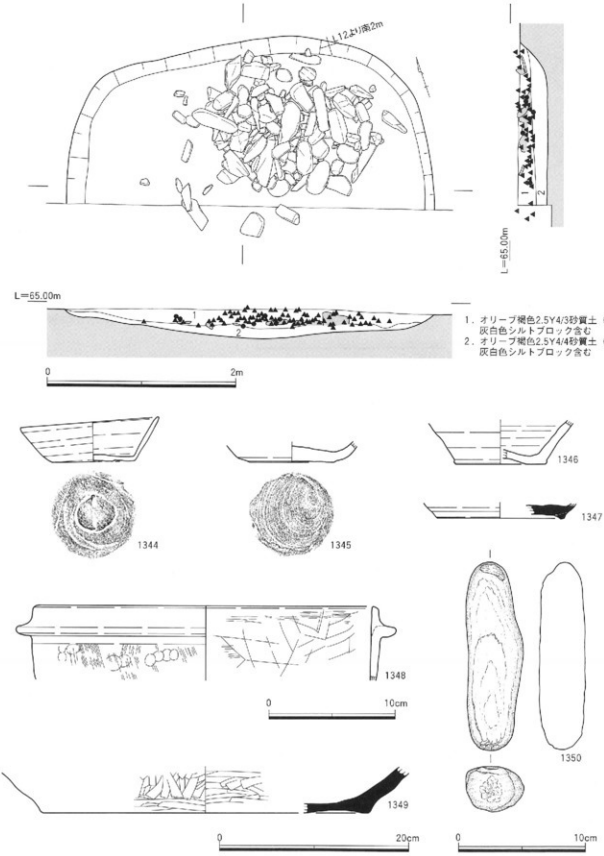
土壙墓139号（Ⅳ地区　ST1139）（第767図）

Ⅳ－4区中央部南側、M10グリッドに位置する、長軸155cm短軸68cm深度34cmを測る楕円形の土壙墓。主軸はN11°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。出土遺物は1点のみで、1353は土師質管状土錘。

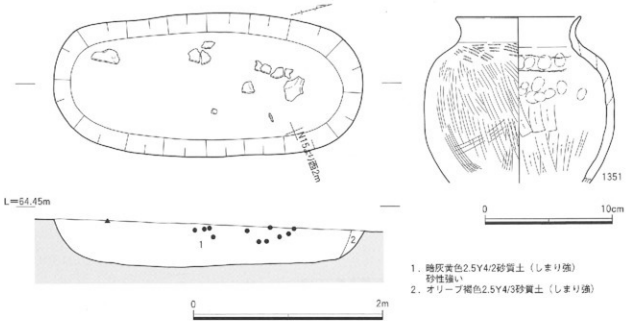
土壙墓143号（Ⅳ地区　ST1143）（第768図）

Ⅳ－4区中央部南端、L11グリッドに位置する、長軸205cm短軸125cm深度69cmを測る隅丸方形の土壙墓。主軸はN13°Eを向く。断面逆台形状で、埋土は4層。最下層は有機物を多く含むとみられる暗色土層。

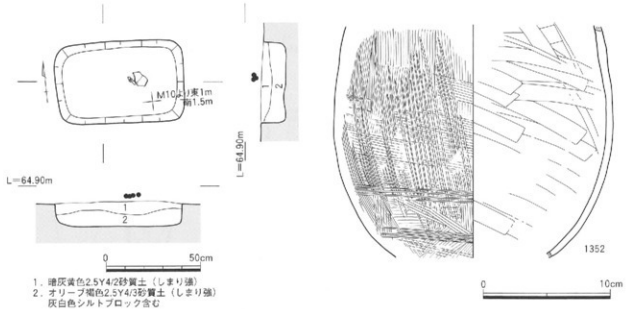
遺物は須恵器杯・蓋が出土。1354・1355は須恵器蓋。1355は摘み部が残存。天井部内面がわずかに磨耗しており、硯に転用した可能性あり。1356～1358は高台付の須恵器杯。1356は胎土に結晶片岩を含む。遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀後半頃と考えられる。



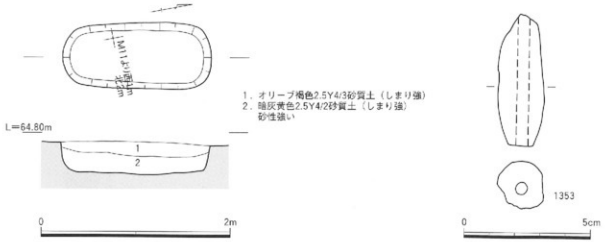
第764図　Ⅳ地区SK1405遺構・遺物実測図



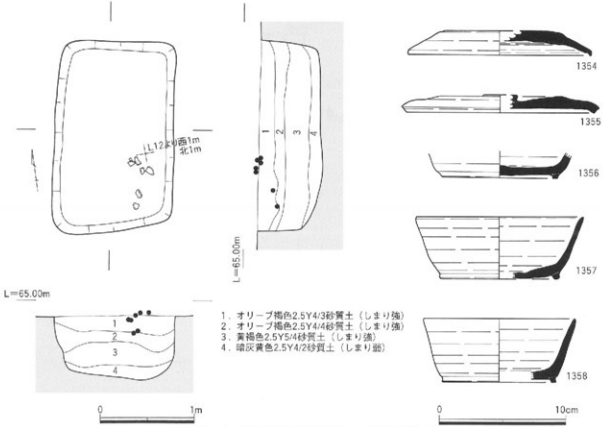
第765図　Ⅳ地区SK1422遺構・遺物実測図



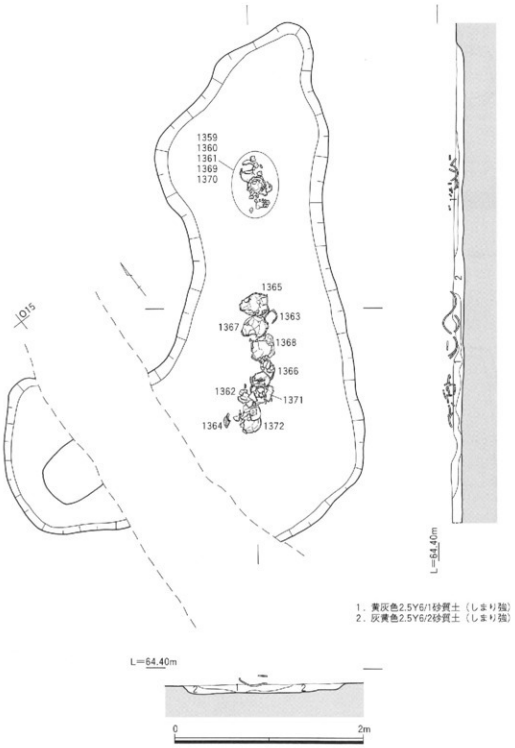
第766図　Ⅳ地区ST1138遺構・遺物実測図



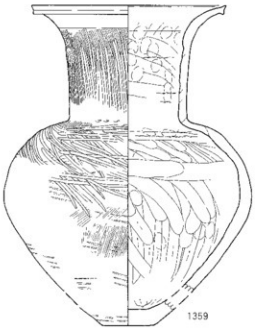
第767図　Ⅳ地区ST1139遺構・遺物実測図

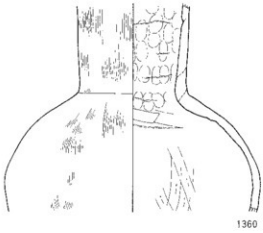


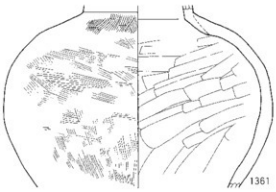
第768図　Ⅳ地区ST1143遺構・遺物実測図

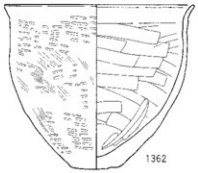


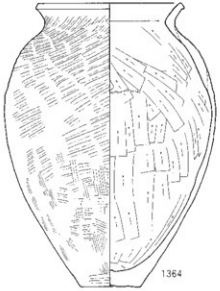
第769図　Ⅳ地区SX1002遺構実測図

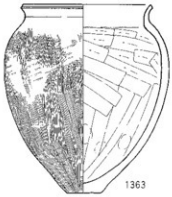




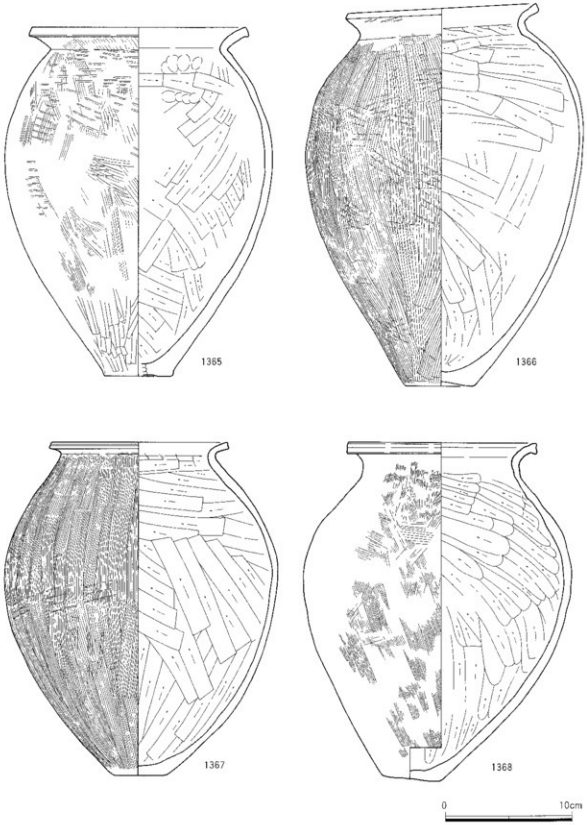




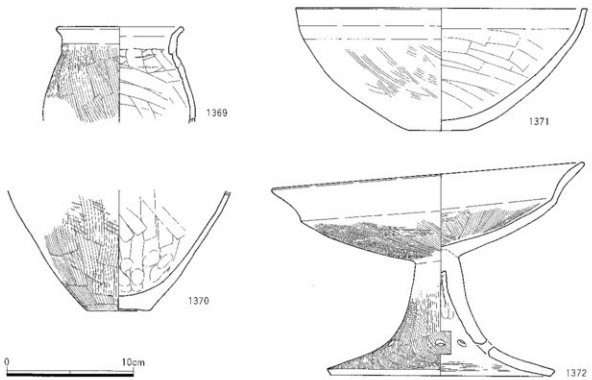




第770図　Ⅳ地区SX1002遺物実測図(1)



第771図　Ⅳ地区SX1002遺物実測図(2)



第772図　Ⅳ地区SX1002遺物実測図(3)

不明遺構２号（Ⅳ地区　SX1002）（第769～772図）

Ⅳ－４区中央部北側、N・O14・15グリッドに位置する、検出長5.5m幅380cm深度16cmを測る、L字状に屈曲する不整形の浅い落ち込み。断面は浅い逆台形状で、埋土は２層に分層。

遺物は南北方向の直線状に列んで弥生土器高杯・鉢・甕・壺（長頸壺）が出土。遺構の形状と遺物の出土状況から方形周溝墓の周溝である可能性もある。ただし遺構深度が浅く、相対する北側に溝がみられないこと、主体部が確認できないことから、積極的に肯定できない。

1359～1361は広口長頸壺。直立する頸部と、ラッパ状に外反する口縁部をもつ。体部は上位に最大径をもち、底部外面は平底をととめる。1359は外面タテハケのちヘラミガキ、体部下位に平行タタキを施す。1360は外面タテハケ、1361は外面タテハケで上位のみヘラミガキを施す。体部内面はいずれもケズリとユビナデで調整する。胎土は1359・1361に砂岩、1360に結晶片岩を含む。Ⅵ様式期とみられる。

1362～1370は甕。1362は頸部を絞らないタイプの甕で、外面平行タタキのちハケを施す。底部は平底で、植物の茎とみられる圧痕が見える。1363～1369は頸部を絞るタイプの甕で、1370は下半部のみ残存するが同タイプとみられる。底部は平底。1364は外面に平行タタキを残し、下半にわずかにハケを施す。1363・1365～1367・1370は外面平行タタキのちタテハケを施し、タタキはわずかに痕跡を残すのみである。1368・1369は外面にハケを施し、タタキは確認できない。いずれも内面はケズリまたは板ナデによって調整する。1362を除いて胎土に結晶片岩を含み、1365・1368は砂岩も含有する。甕の年代は概ねⅥ様式期とみられ、一部Ⅴ様式に遡る可能性がある。

1371は弥生土器鉢。外面ハケ、内面板ナデを施す。胎土に結晶片岩を含む。Ⅵ様式期。

1372は弥生土器高杯。二重口縁をもつ。脚部は裾部を大きく拡げ、焼成前穿孔を施す。杯部内外面および脚部外面～裾端部内面にハケ調整を施す。胎土に結晶片岩を含む。Ⅵ－1～2様式期。

遺構の年代は、出土遺物から弥生時代後期末のⅥ様式に収まるものと考えられる。

小穴759号（Ⅳ地区　SP1759）（第773図）

Ⅳ－4区西部南端、L・M8グリッドに位置する、長径64cm深度24cmを測る隅丸方形の小穴。出土遺物は1点のみで、1373は須恵器蓋。天井部中央を欠く。8～9世紀代か。

小穴764号（Ⅳ地区　SP1764）（第774図）

Ⅳ－4区西部南側、M9グリッドに位置する、径30cm深度32cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1374は土師質土器杯の口縁部とみられる。小片のため径は不正確。

小穴765号（Ⅳ地区　SP1765）（第775図）

Ⅳ－4区中央部南端、L9グリッドに位置する、長径78cm深度23cmを測る楕円形の小穴。断面はU字状で、埋土は2層に分層できる。出土遺物は1点のみで、1375は円盤状高台をもつ須恵器椀。底部外面に回転ヘラ切りのち板日痕を残す。胎土に泥岩を含む。西村遺跡須恵器椀Bに近似しており、佐藤編年では3期、12世紀初頭に位置付けられる。

小穴779号（Ⅳ地区　SP1779）（第776図）

Ⅳ－4区中央部南端、L10グリッドに位置する、径35cm深度37cmを測る不整円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1376は土師質土器皿。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。13世紀代前後とみられる。

小穴785号（Ⅳ地区　SP1785）（第777図）

Ⅳ－4区中央部南側、L11グリッドに位置する、径75cm深度40cmを測る円形の小穴。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。出土遺物は1点のみで、1377は瓦質軒丸瓦の瓦当部。瓦当面の文様は八葉複弁蓮華文である。やや硬質の焼成で、炭素吸着はみられない。柱痕とみられる土層の検出面直上から出土。

〈Ⅳ地区　第1包含層出土遺物〉（第778～784図）

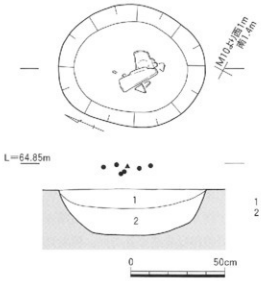
1378は土師質土器皿。底部外面に静止糸切り痕を残す。16世紀代とみられる。1379は土師質土器脚付皿。回転台成形の皿底部外面に脚部貼り付け。3脚を有するとみられる。

1380～1383は高台付の須恵器杯。1383は底部に焼成後穿孔あり。1380は8世紀中葉、1381～1383は8世紀後葉～9世紀初頭とみられる。1384は高台付須恵器椀の下半部。

1385は青磁皿。腰部で稜が付き、体部は外反する。14～15世紀代とみられる。1386は白磁坏。大きく外反する体部をもち、畳付部は露胎。森田分類白磁坏E－2類に相当し、16世紀代の年代が与えられる。

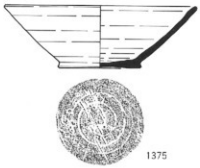
第773図　Ⅳ地区SP1759遺物実測図

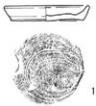
第774図　Ⅳ地区SP1764遺物実測図



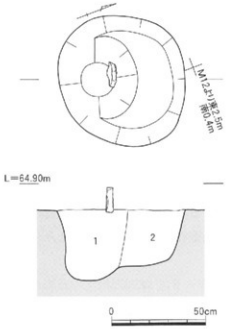
1．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
2．暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）
灰白色シルトブロック含む

第775図　Ⅳ地区SP1765遺構・遺物実測図



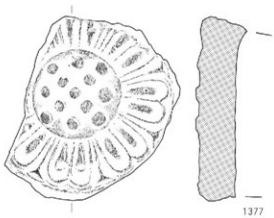


第776図　Ⅳ地区SP1779遺構実測図



1．暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
2．暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）

第777図　Ⅳ地区SP1785遺構・遺物実測図



遺物　0　10cm

1387は青磁碗。体部外面にヘラ描きの細蓮弁文を施す。釉は畳付を越えて高台内側に達する。貫入を伴う。胎土は陶器質で、赤く発色。上田分類B－Ⅳ－a類に相当し、15世紀末～16世紀初頭の年代が与えられる。1388は青磁碗の体部下半。内面に簡略化した蓮弁文と飛鳥文を型押し。明代における龍泉窯系青磁碗の一種とみられる。1389は青磁碗の底部。高台外側にケズリ痕が顕著に残る。外底の釉を輪状に削り取る。釉に粗い貫入を伴う。型式不明であるが、概ね中世後半期。

1390は瀬戸美濃系陶器皿。灰釉の折縁皿で、内ソギ。釉に貫入を伴う。16世紀後半とみられる。1391は肥前系の陶器皿。底部は碁笥底状を呈する。底部内面に胎土目痕３ヵ所あり。16世紀末と考えられる。1392は陶器皿。灰釉を施し、微細な貫入を伴う。素地は赤褐色を呈する。肥前系か。1393は近世備前焼の灯明皿。1394は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗。鉄釉を掛ける。16世紀代か。1395は肥前系の染付皿。内面に草花文を描く。畳付部に離れ砂付着。17世紀代。

1396～1402は土師質土器羽釜。1396は内耳付き。鍔部は折り曲げ技法で作るが、退化して低い凸帯状を呈する。体部内面にヨコハケを施す。胎土に花崗岩と金雲母を含む。瀬戸内沿岸からの搬入品と考えられる。16世紀代。1397は口縁と鍔部を被せ技法で作る。体部～底部外面板ナデで部分的にハケ、内面ハケを施す。概ね15～16世紀代。1398・1399は鍔部折り曲げ技法で作る。体部外面上位に指頭圧痕を残し、内面板ナデを施す。1398は体部下半に板ナデを施し、タタキの痕跡は確認できない。概ね15～16世紀代。1400は体部外面中位に脚が取り付く。脚外側に焼成後の鋸挽き傷が５条あり、脚部の切断を図ったものと考えられる。鍔部は折り曲げ技法で作る。16世紀代とみられる。1401は鍔部が退化して、口縁と体部間の屈曲部として辛うじて認められる。底部外面と内面に横位の板ナデを施す。16世紀代。1402は東予型。鍔部の接合痕は確認できず、折り曲げ技法によるものか。概ね15～16世紀代。

1403・1404は受け口状口縁をもつ土師質土器鍋。1403は部分的に炭素付着がみられ、精良な胎土を持つことから、13世紀後半～14世紀前半頃の京都産瓦質土器の可能性がある。1405・1406は焙烙形の土師質土器鍋。中世末の岡本系焙烙（佐藤分類B－１型式）に近似した形状をもつ。1406は胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

1407は瓦質土器の火鉢。外面上位に２条の凸帯を貼り付け、間にヘラ描き文や菊花文スタンプで加飾する。炭素吸着は外面良好、内面やや不良。Ⅳ－２区SD1040出土の1105と同型であるが、同一個体ではない。

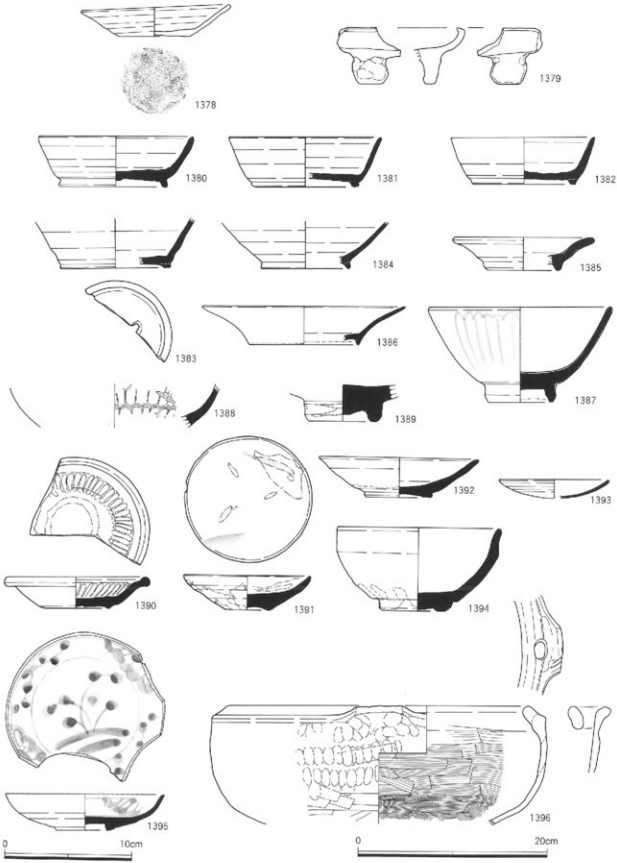
1408は備前焼陶器擂鉢の上半部。重根編年ⅣA－２期、14世紀末～15世紀初頭の年代が与えられる。1409は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張。15～16世紀代と考えられる。

1410は須恵器壺。口縁端部を上方につまみ上げる。概ね10世紀頃とみられる。1411は須恵器直口壺の上部。1412は肥前系陶器の花瓶。鉄釉を施釉する。17世紀後半頃か。1413は土師質土器花瓶の体部。外面を沈線によって上下に分割し、それぞれ三つ巴文スタンプを連続して施文する。地には丁寧なヘラミガキを施す。精良な胎土をもち、本来は瓦質土器であった可能性がある。1414は瀬戸美濃系陶器花瓶の頸部。外面に透明度の高い灰釉を施し、貫入を伴う。内面は露胎で釉垂れあり。中世後半期とみられるが、詳細不明。

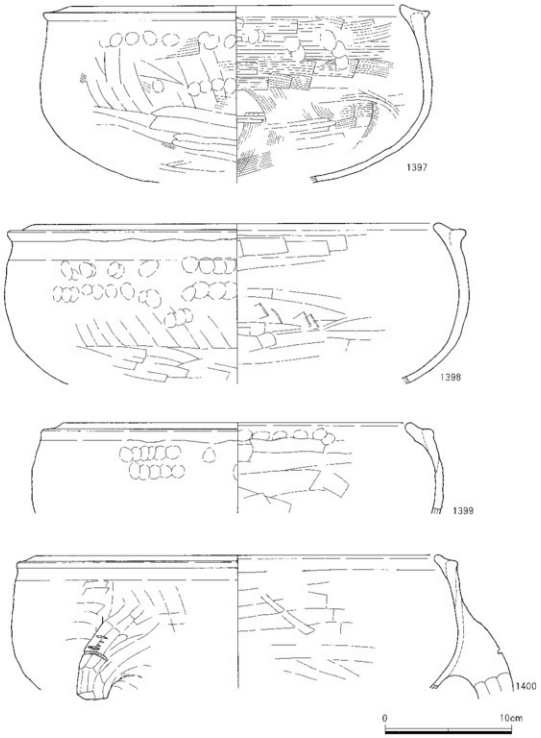
1415は鋳口の口唇部とみられる土製鋳型。内面に上真土が残存。Ⅳ－３区SK1325出土の1230と同一個体の可能性あり。

1416は凝灰岩製砥石。４面を使用し、角部に幅がある沈線状の砥痕を残す。

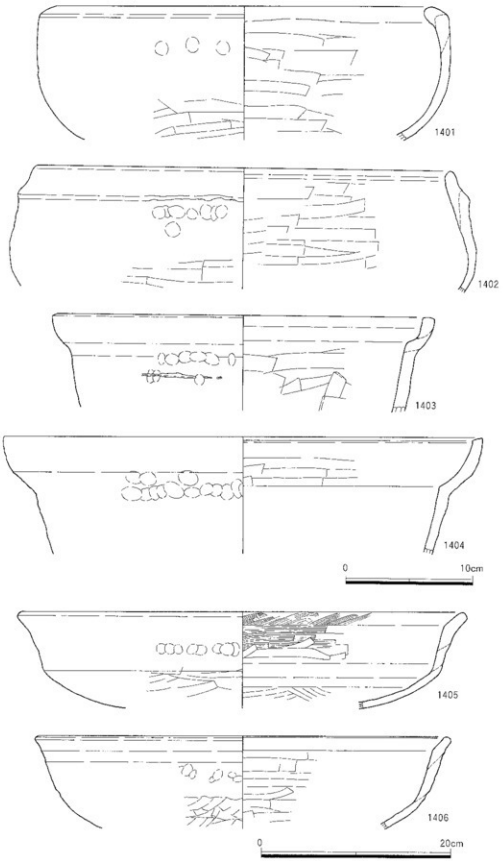
1417～1433は銭貨で、すべて銅銭。1417～1420は開元通寶。唐銭で、621年初鋳。1417～1419は肉薄



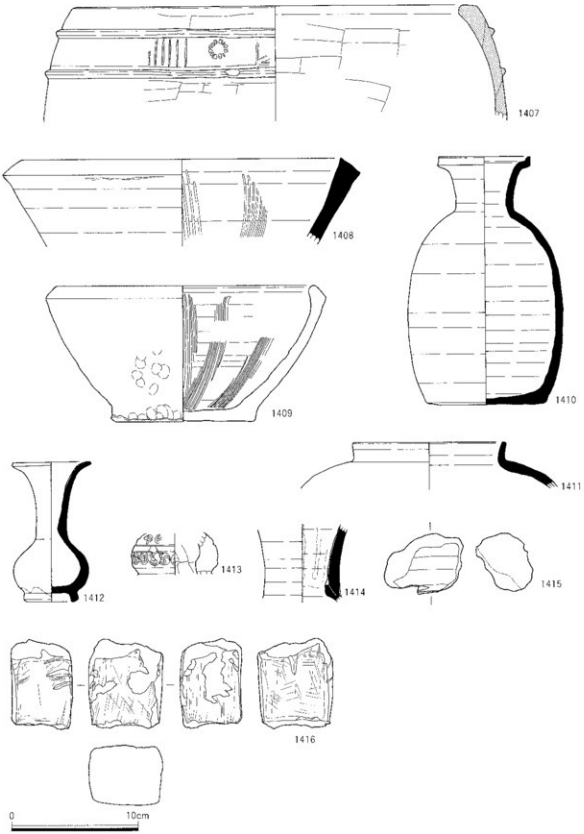
第778図　Ⅳ地区第1包含層遺物実測図(1)



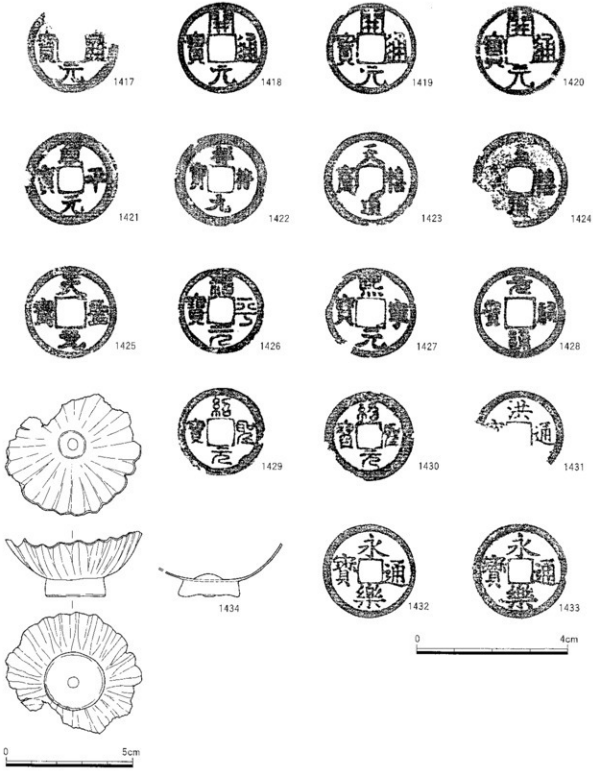
第779図　Ⅳ地区第１包含層遺物実測図(2)



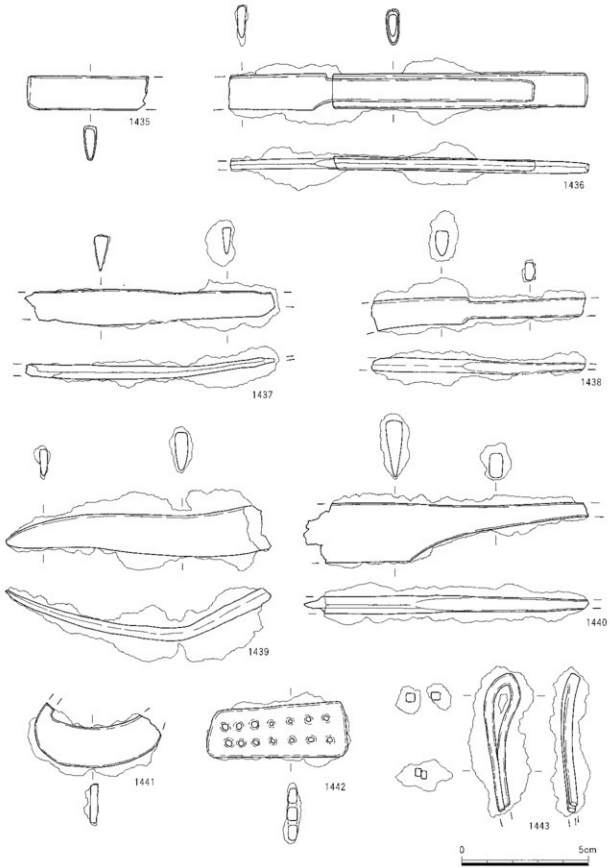
第780図　Ⅳ地区第１包含層遺物実測図(3)



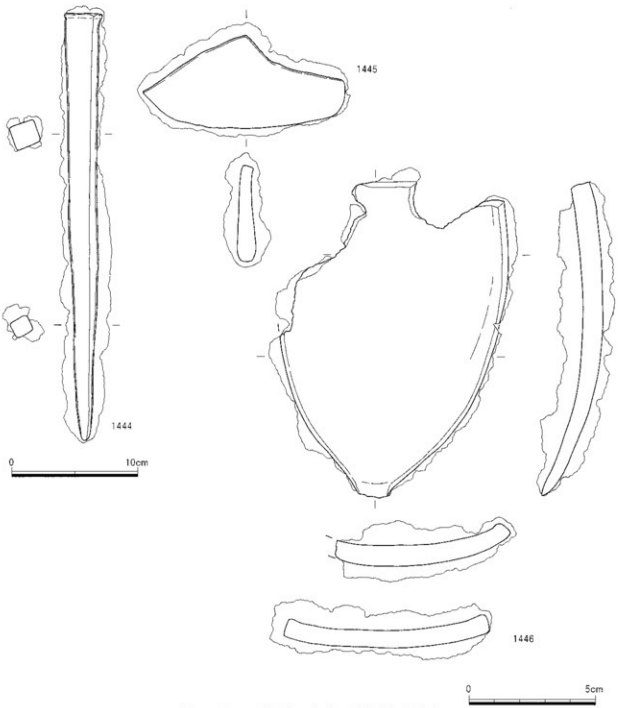
第781図　Ⅳ地区第１包含層遺物実測図(4)



第782図　Ⅳ地区第1包含層遺物実測図(5)



第783図　Ⅳ地区第１包含層遺物実測図(6)



第784図　Ⅳ地区第１包含層遺物実測図(7)

である。1421は咸平元寶。北宋銭で、998年初鋳。1422は祥符元寶。北宋銭で、1008年初鋳。1423・1424は天禧通寶。北宋銭で、1017年初鋳。1425は天聖元寶の真書体。北宋銭で、1023年初鋳。1426は治平元寶の篆書体。北宋銭で、1064年初鋳。1427は熙寧元寶の真書体。北宋銭で、1068年初鋳。1428は元祐通寶の篆書体。北宋銭で、1086年初鋳。1429・1430は紹聖元寶の篆書体。北宋銭で、1094年初鋳。1430は面闊縁で、郭の整形が雑。1431は洪武通宝。明朝銭で、1368年初鋳。1432・1433は永楽通寶。明朝銭で、1408年初鋳。1433は面上位に密着痕あり。1434は青銅製紅皿か鉄製皿。青銅製の皿を輪花形に整形し、底部に台を鋳留めする。外面に鍍金が部分的に残存。一乗谷や勝瑠城館跡で類例あり。

1435は青銅製小柄の鞘部。1436は鉄製刀子で、茎は青銅製の鞘に収まる。1437～1440も鉄製の刀子。1441は鉄製の鉤状製品。刃をもたないため、鎌とは考えにくい。1442は鉄製の小札。径2㎜の孔を上下二段に7ヵ所ずつ穿孔。1443は鉄製のつり金具。1444は鉄製の鏃。全長33.5cmの大型品である。頂部を平坦に作る。1445は銀杏葉状の鉄製品で、山形の火打ち金とみられる。1446は鉄製の鏃先。

〈V地区　第2遺構面〉

V－1・2区（第785図）

V地区は、遺跡東端に位置する調査区で、吉野川の現河道まで90mの位置にある。V地区西半部に位置するV－1・2区は概ね平坦である。東半部に位置するV－3～5区は、北東に向けて傾斜するとともに地山の砂性も増す。第1遺構面直上には洪水砂層とみられる肌理細かい砂層がほぼ全面にみられ、北および東にいくほど厚みを増す。遺構面はV－5区を除く調査区で2面検出した。

V－1・2区第2遺構面では SA10棟、SG3基、SK106基、ST214基、SU7基、SD5条、SP480基を検出している。遺構は北半部にやや密である。土壙墓とみられる長方形土坑が目立つ。溝の検出数は少ない。

掘立柱建物1号（V地区　SA2001）（第786図）

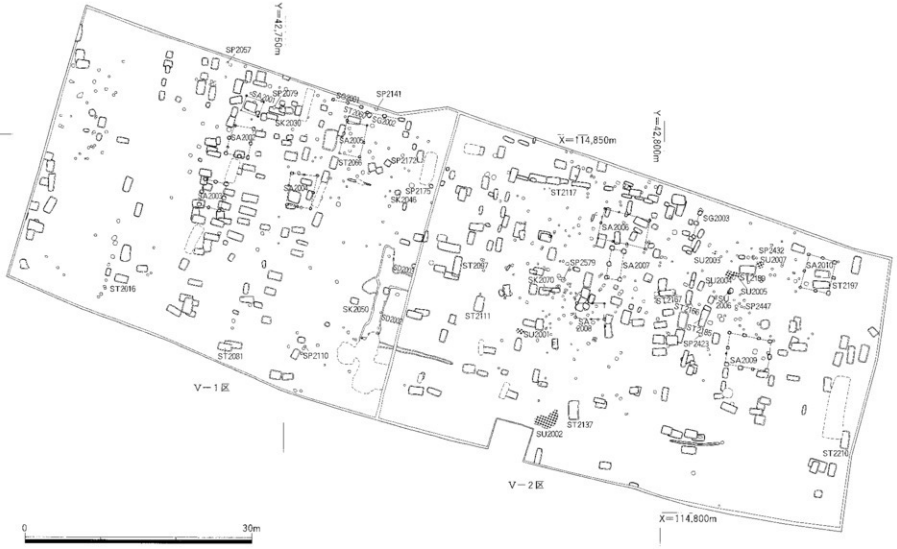
V－1区中央部北端、K・L9・10グリッドに位置する。東西1間（2.4m）南北1間（2.1m）床面積5.0㎡、4基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N70°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径20～25cm深度14～25cmを測る。断面は逆台形状またはU字状である。出土遺物は皆無。

掘立柱建物2号（V地区　SA2002）（第787図）

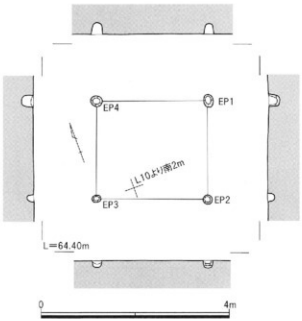
V－1区中央部北側、J・K9・10グリッドに位置する。東西2間（2.9m）南北3間（4.0m）床面積11.6㎡、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は円形か隅丸方形で、径30～55cm深度8～39cm。断面は逆台形状またはU字状で、すべての柱穴で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は1点のみで、1447はEP5から出土した土師器甕の体部上位片。外面に斜位のハケを施す。

掘立柱建物3号（V地区　SA2003）（第788図）

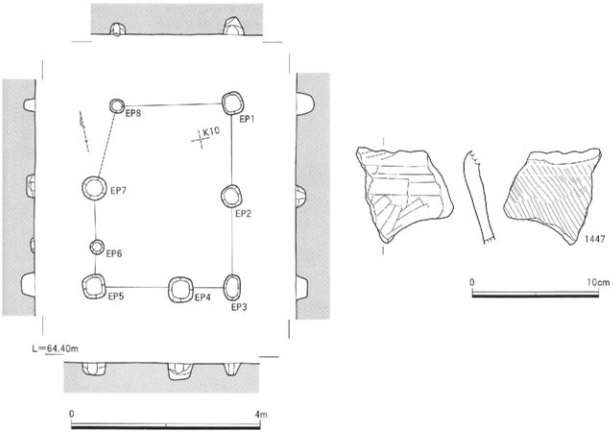
V－1区中央部中央、H・18・9グリッドに位置する。東西2間（3.0m）南北2間（3.6m）床面積10.8㎡、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺



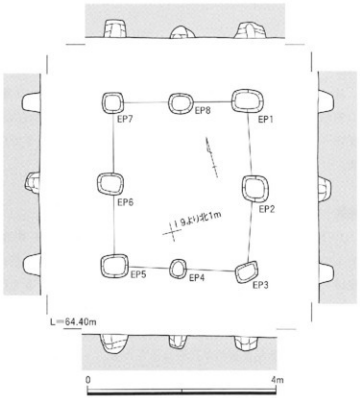
第785図　V－1・2区第2遺構面遺構配置図



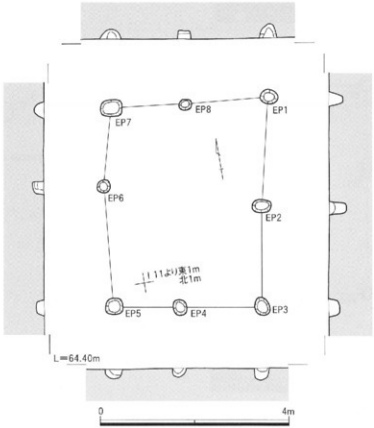
第786図　V地区SA2001遺構実測図



第787図　V地区SA2002遺構・遺物実測図



第788図　V地区SA2003遺構実測図



第789図　V地区SA2004遺構実測図

43～65cm深度26～40cm。断面は逆台形状またはU字状で、すべての柱穴で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。

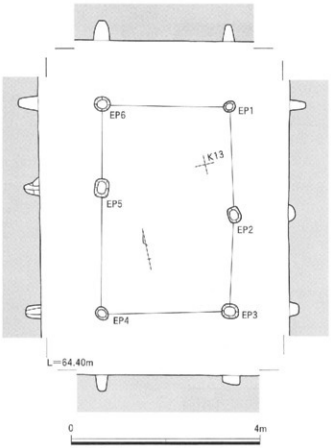
掘立柱建物4号（V地区　SA2004）（第789図）

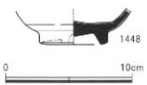
V－1区東部中央、H・I11グリッドに位置する。東西2間（3.5m）南北2間（4.4m）床面積15.4㎡、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N9°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺30～48cm深度18～38cm。断面は逆台形状かU字状で、EP1・6・7で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。

掘立柱建物5号（V地区　SA2005）（第790図）

V－1区東部北端、J・K12・13グリッドに位置する。東西1間（2.8m）南北2間（4.4m）床面積12.3㎡、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N13°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形か不整円形で、一辺25～38cm深度14～36cm。断面は逆台形状またはU字状で、EP4・5で柱痕とみられる土層を確認。

出土遺物は1点のみで、1448はEP4から出土した青磁碗の下半部。高台外面途中まで施釉。上田分類E類とみられ、15世紀後葉～16世紀前葉の年代が与えられる。





第790図　V地区SA2005遺構・遺物実測図

掘立柱建物６号（Ⅴ地区　SA2006）（第791・792図）

Ⅴ－２区中央部北側、G～I19・20グリッドに位置する。東西３間（6.3m）南北２間（4.0m）床面積25.2㎡、８基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N78°Wを向く。柱穴の平面形は円形か楕円形で、径25～40cm深度７～30cm。断面逆台形状かU字状で、EP１・２・４・８で柱痕とみられる土層を確認。

遺物はEP１から、土師質土器片、陶器碗、瓦片が出土。1449はEP１出土の瀬戸美濃系陶器天目茶碗。鉄釉を施す。16世紀代とみられる。

掘立柱建物７号（Ⅴ地区　SA2007）（第793図）

Ⅴ－２区中央部北寄り、G・H19・20グリッドに位置する。東西１間（1.8m）南北２間（4.0m）床面積7.2㎡、５基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N10°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺55～70cm深度７～34cmを測る。断面は逆台形状で、EP２で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。

掘立柱建物８号（Ⅴ地区　SA2008）（第794図）

Ⅴ－２区中央部、F18・19グリッドに位置する。東西２間（3.8m）南北１間（2.1m）床面積8.0㎡、６基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N88°Wを向く。柱穴の平面形は円形か楕円形で、径25～45cm深度７～30cmを測る。断面逆台形状かU字状で、EP６で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。

掘立柱建物９号（Ⅴ地区　SA2009）（第795図）

Ⅴ－２区東部中央、D・E２・３グリッドに位置する。東西３間（5.5m）南北３間（4.1m）床面積22.6㎡、11基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N79°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または円形で、一辺40～65cm深度35～57cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP７を除くすべての柱穴で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP２・３・６～８から、土師器片・須恵器片・杯が出土。

掘立柱建物10号（Ⅴ地区　SA2010）（第796図）

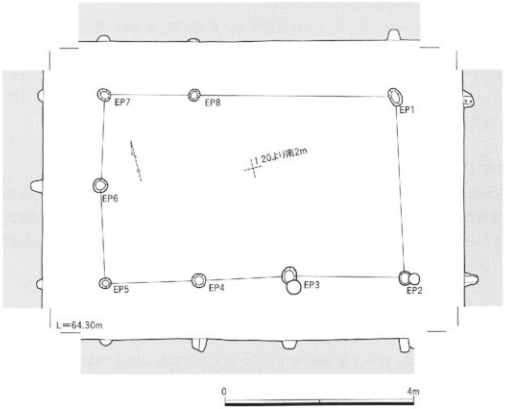
Ⅴ－２区東部北端、F・G４・５グリッドに位置する。東西２間（3.8m）南北２間（4.5m）床面積17.1㎡、８基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または円形で、一辺35～60cm深度32～45cmを測る。断面は逆台形状で、EP２～７で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP６から、土師質土器杯・東予型羽釜が出土。

棚列１号（Ⅴ地区　SG2001）（第797図）

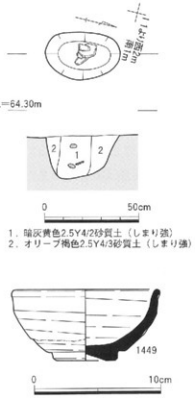
Ⅴ－１区東部北端、K12・13グリッドに位置する。東西２間（3.8m）、３基の柱穴が一の字形に列ぶ棚列で、主軸はN76°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺43～55cm深度18～33cmを測る。断面は逆台形状で、EP２で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。SG2002とともに掘立柱建物SA2005の北側を画する位置にある。

棚列２号（Ⅴ地区　SG2002）（第798図）

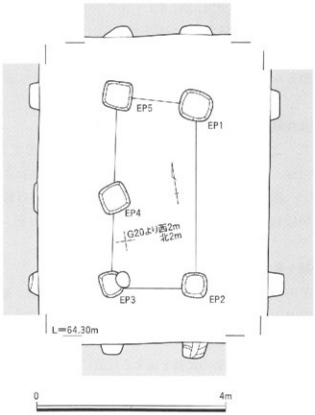
Ⅴ－１区東部北端、K13・14グリッドに位置する。東西２間（4.6m）、３基の柱穴が一の字形に列ぶ



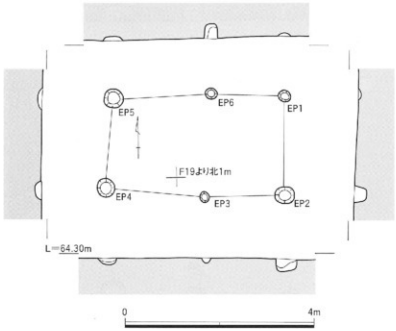
第791図　Ⅴ地区SA2006遺構実測図



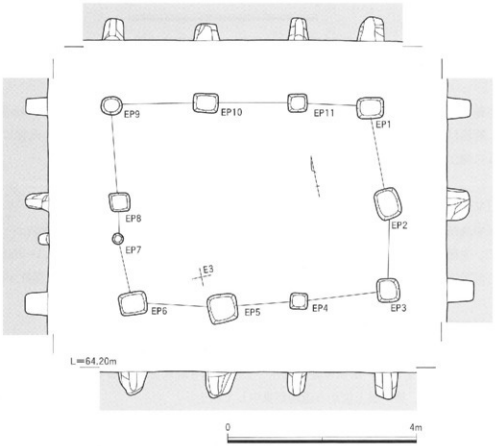
第792図　Ⅴ地区SA2006 EP1
遺構・遺物実測図



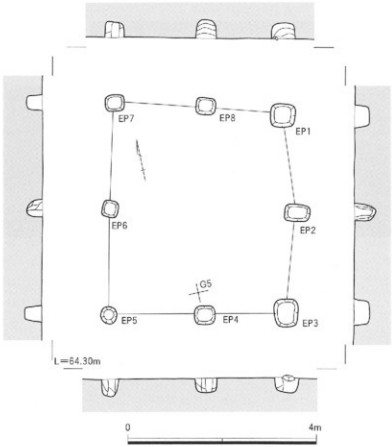
第793図　Ⅴ地区SA2007遺構実測図



第794図　V地区SA2008遺構実測図



第795図　V地区SA2009遺構実測図



第796図　V地区SA2010遺構実測図

構列で、主軸はN79°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺48～90cm深度27～50cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP2で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。SG2001とともに掘立柱建物SA2005の北側を画する位置にある。

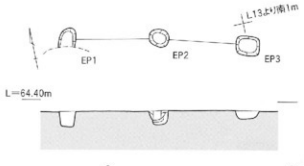
構列3号（V地区　SG2003）（第799図）

V－2区中央部北端、G～I1・2グリッドに位置する。南北3間（5.9m）4基の柱穴が一の字形に列ぶ構列で、主軸はN14°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺52～75cm深度15～80cmを測る。断面は逆台形状で、柱痕は確認できない。遺物はEP3・4から、土師器片、土師質土器片が出土。

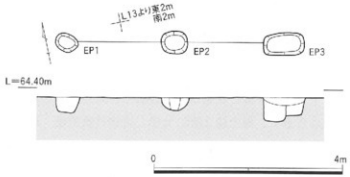
土坑30号（V地区　SK2030）（第800図）

V－1区中央部北端、K10・11グリッドに位置する、長軸112cm短軸93cm深度60cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN90°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は8層に分層。第1～4層は上から掘り込まれたピット状の土層で、第1層上位から遺物が集中して出土。

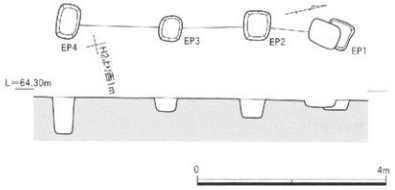
遺物は土師器杯・椀、鉄滓が出土。1450・1451は土師器杯。1450は底部外面回転ヘラ切りのち板目痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。1452・1453は土師器椀。1453は高台を有する。杯・椀ともに直線的な体部をもち、口縁端部がわずかに外反する。概ね10世紀前後とみられる。



第797図　V地区SG2001遺構実測図



第798図　V地区SG2002遺構実測図



第799図　V地区SG2003遺構実測図

土坑46号（V地区　SK2046）（第801図）

V－1区東部北寄り、I13・14グリッドに位置する、長軸80cm短軸67cm深度24cmを測る隅丸方形土坑。主軸はN77°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。

遺物は土師器杯・甕が検出面より5～8cm上で出土。1454は土師器杯。内外面に赤彩を施す。1455は土師器甕の上半部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね10世紀前後と考えられる。

土坑50号（V地区　SK2050）（第802図）

V－1区東部南側、F12・13グリッドに位置する、長軸107cm短軸85cm深度35cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN75°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺物は土師器甕、須恵器甕が出土。1456は土師器甕の口縁部。口縁内外面にハケを施す。

土坑70号（V地区　SK2070）（第803図）

V－2区西部中央、F17・18グリッドに位置する、長軸130cm短軸54cm深度40cmを測る不整な長楕円形土坑。主軸はN90°WEを向く。断面逆台形状で、埋土は8層。遺物は土師質土器片・杯・煮炊具（格子タタキ）が出土。1457は土師質土器杯の下半部。底部外面に静止糸切り痕を残す。16世紀とみられる。

土壙墓16号（V地区　ST2016）（第804図）

V－1区西部南端、G6グリッドに位置する、長軸176cm短軸102cm深度25cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN78°Wを向く。断面は方形で、埋土は2層に分層。遺物は鉄製楔・鎌、鉄滓が出土。1458は鉄製品片で鎌とみられる。

土壙墓60号（V地区　ST2060）（第805図）

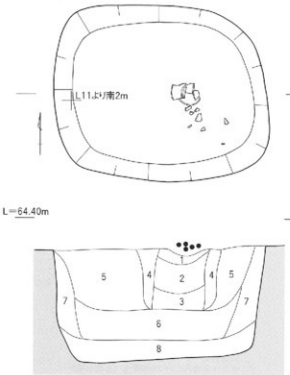
V－1区東部北端、K2グリッドに位置する、長軸175cm短軸103cm深度19cmを測る隅丸方形の土壙墓。主軸はN79°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1459は須恵器蓋。焼成不良で、酸化炎焼成される。器面に炭素付着し、外面に重焼痕を残す。8～9世紀代か。

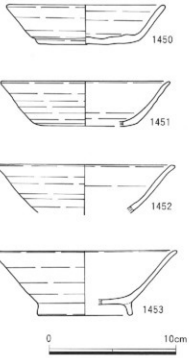
土壙墓66号（V地区　ST2066）（第806図）

V－1区東部北側、J2グリッドに位置する、長軸165cm短軸94cm深度34cmを測る隅丸方形の土壙墓。主軸はN17°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。出土遺物は1点のみで、1460は無高台の須恵器杯。8～9世紀代とみられる。

土壙墓81号（V地区　ST2081）（第807図）

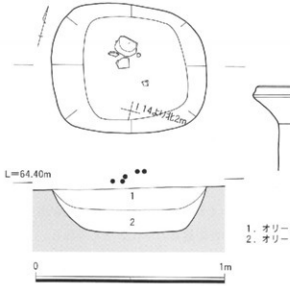
V－1区中央部南端、E9グリッドに位置する、長軸188cm短軸100cm深度57cmを測る隅丸方形の土壙墓。主軸はN80°Wを向く。断面方形または逆台形状で、埋土は3層。最下層は有機物を多く含むとみられる暗色土層である。出土遺物は1点のみで、1461は弥生土器甕または壺の底部。外面にタテハケ、内面ケズリを施す。弥生時代後期末。

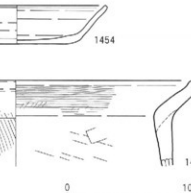




1．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
　灰白色シルトブロック含む
2．灰白色2.5Y7/1シルト（しまり強）
　オリーブ褐色砂質土ブロック含む
3．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
　灰白色シルトブロック含む
4．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
　灰白色シルトブロック多く含む
5．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
　灰オリーブ色シルトブロック含む
6．暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
7．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
8．暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
　灰オリーブ色シルトブロック含む

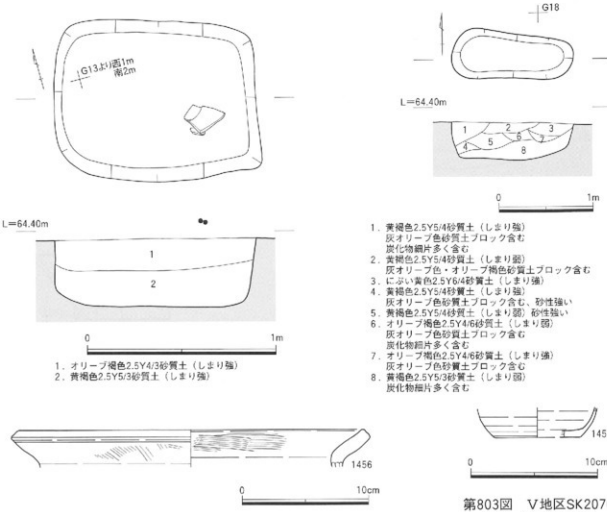
第800図　V地区SK2030遺構・遺物実測図





1．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
2．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）

第801図　V地区SK2046遺構・遺物実測図



第802図　V地区SK2050遺構・遺物実測図

第803図　V地区SK2070
遺構・遺物実測図

土壙墓97号（V地区　ST2097）（第808図）

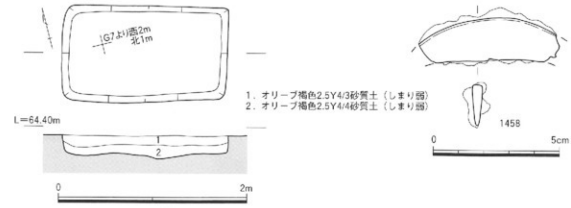
V－2区西部北寄り、G15グリッドに位置する、長軸275cm短軸105cm深度42cmを測る隅丸方形の土壙墓。主軸はN10°Eを向く。断面方形で、南側に段をもつ。埋土は3層に分層。遺物は土師器片・皿・煮炊具、土師質土器片が出土。1462は土師器皿の底部。底部外面に高台の剥離痕がある。内外面赤彩あり。

土壙墓111号（V地区　ST2111）（第809図）

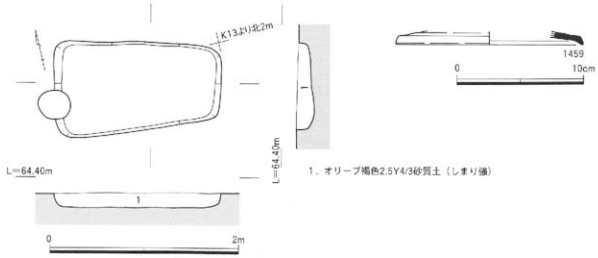
V－2区西部南寄り、F16グリッドに位置する、長軸205cm短軸125cm深度60cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN13°Eを向く。断面方形で、埋土は6層。遺物は弥生土器片、土師器片、青磁碗が出土。1463は青磁碗の口縁部。上田分類D－Ⅱ類に相当し、14世紀末～15世紀前葉の年代が与えられる。

土壙墓117号（V地区　ST2117）（第810図）

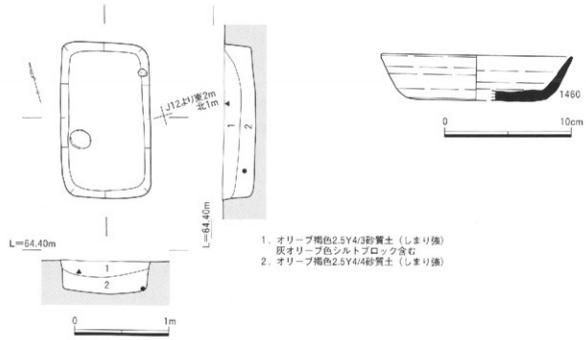
V－2区西部北端、I18グリッドに位置し、西は遺構に切られる。長軸残存長105cm短軸65cm深度45cm



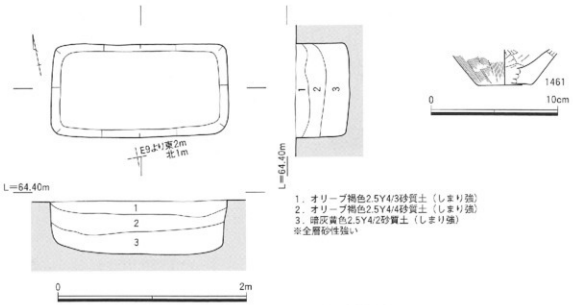
第804図　V地区ST2016遺構・遺物実測図



第805図　V地区ST2060遺構・遺物実測図



第806図　V地区ST2066遺構・遺物実測図



第807図　V地区ST2081遺構・遺物実測図

を測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN82°Wを向く。断面は方形で、埋土は5層に分層できる。遺物は土師器杯、土師質土器杯が出土。1464は土師器杯の底部。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。

土壙墓137号（V地区　ST2137）（第811図）

V－2区中央部南側、C18グリッドに位置する、長軸128cm短軸68cm深度11cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN0°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、1465は弥生土器壺の底部。外面に平行タタキのちタテハケ、内面板ナデを施す。弥生時代後期末と考えられる。

土壙墓166号（V地区　ST2166）（第812図）

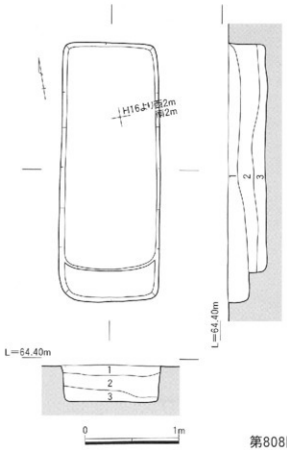
V－2区中央部北寄り、F1グリッドに位置する、長軸200cm短軸80cm深度25cmを測る不整な隅丸長方形の土壙墓。主軸はN10°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・皿、土師質土器片が出土。1466は須恵器皿。焼成不良気味で、部分的に炭素付着。8世紀後半～9世紀前葉頃とみられる。

土壙墓167号（V地区　ST2167）（第813図）

V－2区中央部北寄り、G20・1グリッドに位置する、長軸214cm短軸84cm深度56cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN83°Eを向く。断面は方形あるいは逆台形状で、埋土は5層に分層できる。出土遺物は1点のみで、1467は弥生土器甕の口縁部。頸部外面に平行タタキ、口縁内面にヨコハケを施す。

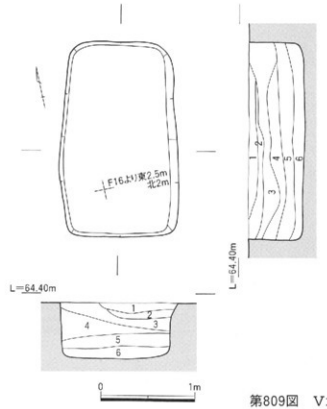
土壙墓185号（V地区　ST2185）（第814図）

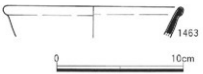
V－2区中央部、E・F1・2グリッドに位置し、北は遺構に切られる。長軸残存長235cm短軸109cm



1．オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土（しまり強）
2．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
3．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）

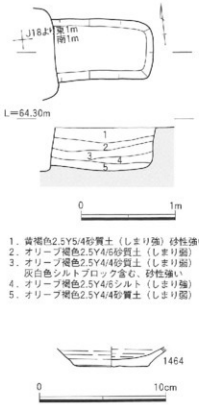
第808図　V地区ST2097遺構・遺物実測図



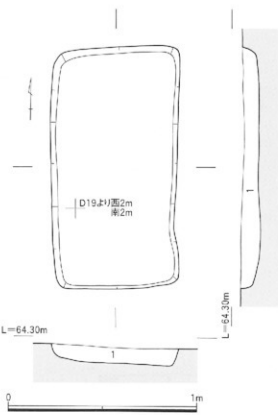


1．にぶい黄褐色10YR5/3砂質土（しまり強）
　灰白色砂質土ブロック含む
2．灰白色2.5Y7/1砂質土（しまり強）
　にぶい黄褐色砂質土ブロック含む
3．にぶい黄褐色10YR5/3砂質土（しまり強）
　灰白色砂質土ブロック含む
4．にぶい黄褐色10YR5/3砂質土（しまり弱）
5．黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり弱）
　灰白色砂質土ブロック含む
6．黄褐色2.5Y5/4砂質土（しまり弱）
　砂性強い

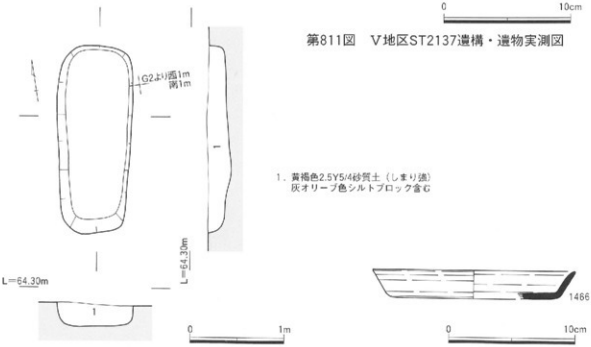
第809図　V地区ST2111遺構・遺物実測図



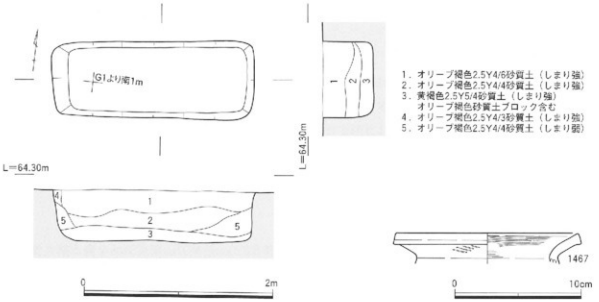
第810図　V地区ST2117遺構・遺物実測図



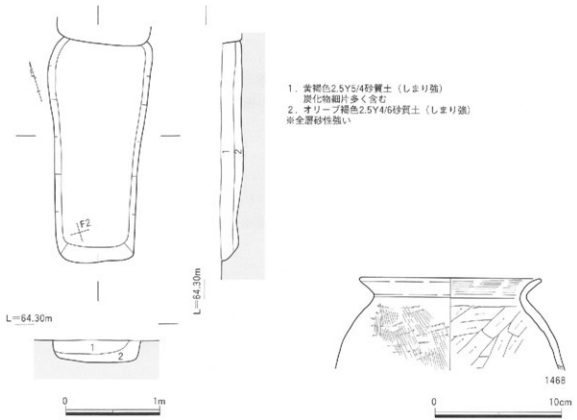
第811図　V地区ST2137遺構・遺物実測図



第812図　V地区ST2166遺構・遺物実測図



第813図　V地区ST2167遺構・遺物実測図



第814図　V地区ST2185遺構・遺物実測図

深度24cmを測る不整な隅丸長方形の土壙墓。主軸はN17°Eを向く。断面逆台形状で、埋土は2層。

遺物は弥生土器甕、土師器片、須恵器片が出土。1468は弥生土器甕の上半部。体部外面平行タタキのちタテハケ、口縁内面ヨコハケ、体部内面ケズリを施す。胎土に結晶片岩・砂岩を含む。弥生時代後期後半～末と考えられる。

土壙墓189号（V地区　ST2189）（第815図）

V－2区東部北側、G2・3グリッドに位置する、長軸210cm短軸115cm深度38cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN87°Wを向く。断面は方形または逆台形状で、埋土は5層に分層できる。遺物は土師器片、土師質土器擂鉢・煮炊具が出土。1469は土師質土器擂鉢の上部片。口縁端部を内上方に拡張。片口を有する。概ね15～16世紀代とみられる。

土壙墓197号（V地区　ST2197）（第816図）

V－2区東部北端、F・G4・5グリッドに位置する、長軸220cm短軸97cm深度58cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN88°Wを向く。断面は方形で、埋土は4層。出土遺物は1点のみで、1470は弥生土器甕の上半部。口縁端部～内面にヨコハケ、外面タテハケを施す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

土壙墓210号（V地区　ST2210）（第817図）

V－2区東端部南側、B・C5グリッドに位置する、長軸240cm短軸110cm深度52cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN7°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層。遺物は土師器片・須恵器杯が出土。1471は高台付の須恵器杯。口縁を欠き、高台は剥離。概ね8世紀後半～9世紀頃とみられる。

集石遺構1号（V地区　SU2001）（第818図）

V－2区西部南寄り、E17グリッドに位置する。検出面の6～36cm上で、長軸102cm短軸65cmの不整形に、10～40cm大の礫が検出された集石遺構。遺構の掘り込みを伴わない。出土遺物は皆無。

集石遺構2号（V地区　SU2002）（第819図）

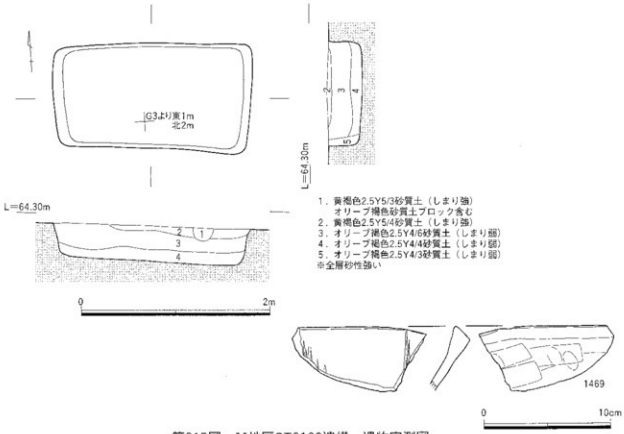
V－2区中央部南端、C17・18グリッドに位置する。検出面の25～46cm上で、長軸320cm短軸214cmを測る不整形に、10～50cm大の礫がやや疎らに検出された集石遺構。遺構の掘り込みを伴わない。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・皿・壺が出土。1472は須恵器壺の下半部。法量と比較して過小な高台をもつ。器壁は厚い。8～9世紀代とみられる。

集石遺構3号（V地区　SU2003）（第820図）

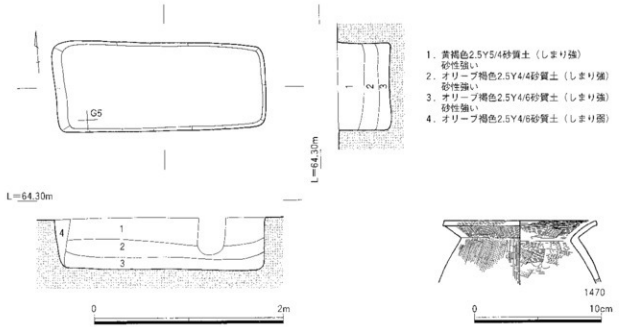
V－2区中央部北側、G2グリッドに位置する。検出面の8～24cm上で、径約48cmの範囲に、20cm大の礫が4点検出された集石遺構。遺構の掘り込みを伴わない。出土遺物は皆無。

集石遺構4号（V地区　SU2004）（第821図）

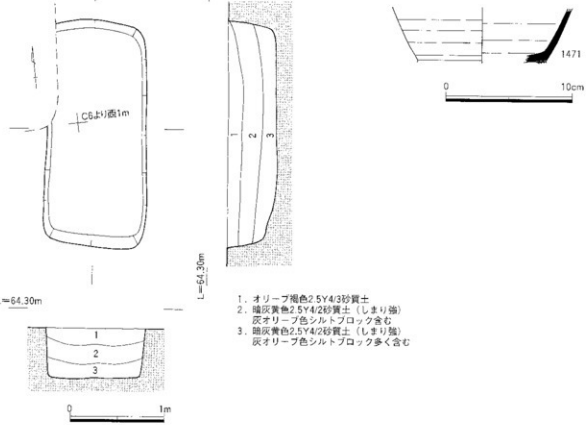
V－2区東部北側、G2グリッドに位置する。検出面の14～28cm上で、長軸98cm短軸56cmを測る楕円形状に、10～50cm大の礫が集中する。遺構の掘り込みを伴わない。遺物は土師器片が出土。



第815図　V地区ST2189遺構・遺物実測図



第816図　V地区ST2197遺構・遺物実測図



第817図　V地区ST2210遺構・遺物実測図

集石遺構５号（V地区　SU2005）（第822図）

V－２区東部北側、G２グリッドに位置する。検出面の４～46cm上で、長軸88cm短軸86cmの範囲に、10～60cm大の礫が集中する。遺構の掘り込みを伴わない。遺物は土師器片、土師質土器片が出土。

集石遺構６号（V地区　SU2006）（第823図）

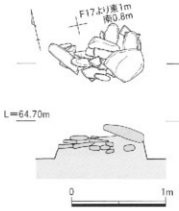
V－２区東部北側、F２グリッドに位置する。検出面上２～18cmで集石検出。長軸89cm短軸62cmの範囲に、10～20cm大の礫が集中する。集石下に深度13cmを測る不整形の掘り込みを伴う。断面は逆台形状で、埋土は２層。出土遺物は皆無。

集石遺構７号（V地区　SU2007）（第824図）

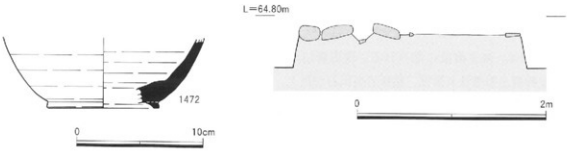
V－２区東部北側、G３グリッドに位置する。検出面の10～30cm上で、長軸84cm短軸56cmの範囲に、10～30cm大の礫が集中する。遺構の掘り込みを伴わない。出土遺物は皆無。

溝２・３号（V地区　SD2002・2003）（第825・826図）

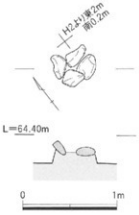
SD2002・2003はV－１区東端部南側、E～H13・14グリッドに位置する。南北主軸の溝SD2002と東西主軸の溝SD2003がT字形に接する。切り合い関係は検出できなかった。ともに断面はレンズ状で、埋土は４層に分層できる。



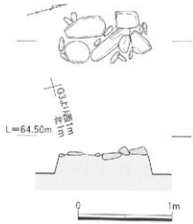
第818図　V地区
SU2001遺構実測図



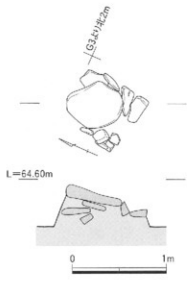
第819図　V地区SU2002遺構・遺物実測図



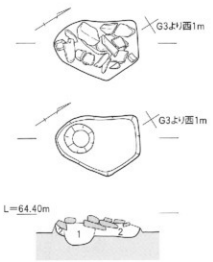
第820図　V地区SU2003遺構実測図



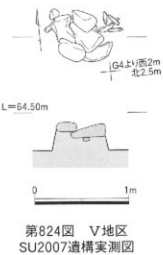
第821図　V地区SU2004遺構実測図



第822図　V地区
SU2005遺構実測図



第823図　V地区
SU2006遺構実測図



第824図　V地区
SU2007遺構実測図

SD2002は、南を撹乱に切られる。検出長13.0m幅228cm深度14cmを測る。主軸はN12°Eを向く。遺物は土師質土器煮炊具脚部、粘板岩製砥石が出土。1473は粘板岩製砥石で4面を使用する。硯の転用と考えられる。SD2003は、東は調査区外に延びるが、隣接するV－2区では検出されない。検出長2.5m幅228cm深度31cmを測る。主軸はN82°Wを向く。遺物は鉄釘が出土。

小穴57号（V地区　SP2057）（第827図）

V－1区中央部北端、L9グリッドに位置する、径25cm深度20cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1474は高台付の土師器杯か椀の底部。焼成不良で、軟質焼成である。

小穴79号（V地区　SP2079）（第828図）

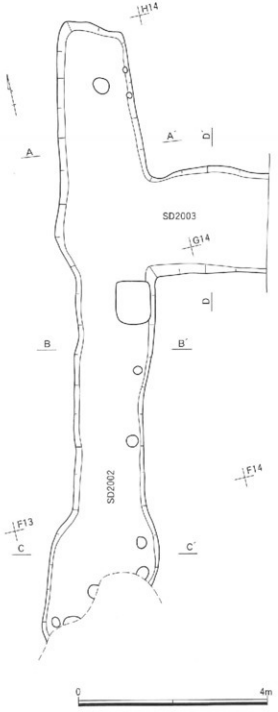
V－1区中央部北側、K10グリッドに位置する、長径48cm深度30cmを測る楕円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1475は土師器杯の底部。外面に回転ヘラ切り痕を残す。

小穴110号（V地区　SP2110）（第829図）

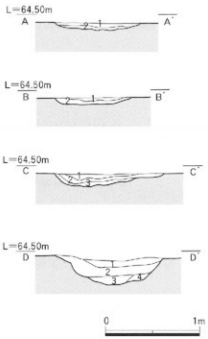
V－1区東部南側、E11グリッドに位置する、径32cm深度32cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1476は土師質管状土錘。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

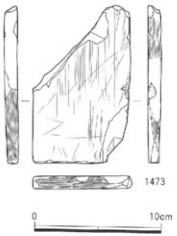
小穴141号（V地区　SP2141）（第830図）

V－1区東部北端、K13グリッドに位置する、径40cm深度16cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1477は土師器甕の上半部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。体部外面タテハケ、口縁内



第825図　V地区SD2002・SD2003遺構実測図

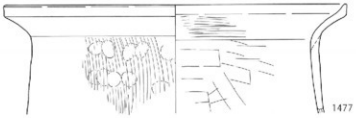




第826図　V地区SD2002遺物実測図

第827図　V地区SP2057遺物実測図

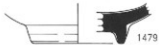
第828図　V地区SP2079遺物実測図



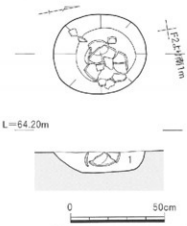
第830図　V地区SP2141遺物実測図

第829図　V地区
SP2110遺物実測図

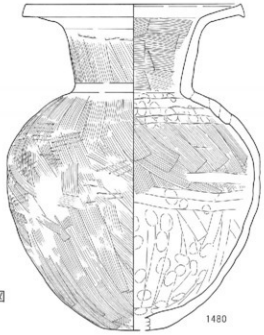
第831図　V地区SP2172遺物実測図

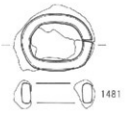


第832図　V地区SP2175遺物実測図



第833図　V地区SP2423遺構・遺物実測図





第834図　V地区
SP2432遺物実測図

第835図　V地区SP2447遺物実測図

第836図　V地区SP2579遺物実測図

面ヨコハケを施す。

小穴172号（V地区　SP2172）（第831図）

V－1区東部北側、J14グリッドに位置する、長径45cm深度16cmを測る楕円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1478は高台付須恵器杯の底部。8世紀後半～9世紀頃か。

小穴175号（V地区　SP2175）（第832図）

V－1区東端部北側、I14グリッドに位置する、径68cm深度48cmを測る不整円形の小穴。遺物は土師質土器杯、青磁碗、鉄滓が出土。1479は青磁碗の底部。底部外面の釉を円形に掻き取る。法量が大きく、盤か鉢の可能性もある。14世紀後葉～15世紀代か。

小穴423号（V地区　SP2423）（第833図）

V－2区中央部、E1・2グリッドに位置する、長径50cm深度10cmを測る楕円形の小穴。断面逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1480は弥生土器の広口長頸壺。口縁端部を下方に拡張する。外面タテハケを施し、体部外面平行タタキの痕跡あり。内面は頸部～体部上位ハケ、下位板ナデを施す。わずかに平底をとどめる。胎土に結晶片岩・絹雲母を含む。Ⅵ様式期に位置づけられる。

小穴432号（V地区　SP2432）（第834図）

V－2区東部北側、H3グリッドに位置する、長径37cm深度31cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器片、鉄製品が出土。1481は環状の鉄製品で責金具とみられる。

小穴447号（V地区　SP2447）（第835図）

V－2区東部北寄り、F3グリッドに位置する、径35cm深度21cmを測る円形の小穴。遺物は土師器片、須恵器杯が出土。1482は高台付の須恵器杯。8世紀後半～9世紀頃とみられる。

小穴579号（V地区　SP2579）（第836図）

V－2区西部北寄り、G18グリッドに位置する、一辺57cm深度21cmを測る不整な隅丸方形小穴。遺物は土師器片か・煮炊具・甕が出土。1483は土師器甕の下部。体部外面タテハケ、内面にヨコハケを施す。

V－3・4区（第837図）

V－3・4区第2遺構面は、全体的に北東へ向けて下がる。遺構密度は低く、V－3区東半ではほとんど検出されないことから、中庄東遺跡の縁辺部にあたると考えられる。SA1棟、SK49基、ST46基、SD3条、SP100基、SR2条を検出。

掘立柱建物11号（V地区　SA2011）（第838図）

V－4区中央部、O・P19・20グリッドに位置する。東西2間（5.5m）南北2間（3.8m）床面積20.9㎡、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N77°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径

第837図　V－3・4区第2遺構面遺構配置図

28～40cm深度6～32cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、柱痕は確認できない。遺物はEP6から土師質土器片が出土。

土坑112号（V地区　SK2112）（第839図）

V－3区西部北端、E10グリッドに位置する、長軸100cm短軸58cm深度44cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN12°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、底面は北側が下がる。埋土は3層に分層できる。遺物は土師器片・煮炊具・甕が出土。1484は土師器甕の口縁部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。口縁内面にヨコハケを施す。

土坑115号（V地区　SK2115）（第840図）

V－3区西部北側、C10・11グリッドに位置する、長軸138cm短軸97cm深度22cmを測る不整な楕円形土坑。主軸はN75°Wを向く。断面は逆台形状で、底面は中央がわずかに下がる。埋土は2層。第1層上位～検出面上に10～35cm大の礫が集中する。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器片、瀬戸美濃系陶器天目茶碗、角礫凝灰岩製石臼が出土。1485は天霧産の角礫凝灰岩製石臼（上臼）。中央付近に供給孔が貫通する。下面は凹面状で、摩耗著しく、溝目無し。中央に芯棒受け孔を有する。側面に横打ち込み孔を2ヶ所設け、一方は下面の摩耗により露出する。

遺構の年代は、出土遺物から概ね16世紀頃と考えられる。

土坑122号（V地区　SK2122）（第841図）

V－3区中央部南側、S18グリッドに位置する、長軸103cm短軸58cm深度12cmを測る楕円形の土坑。主軸はN64°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1486は土師器杯の底部。外面に回転ヘラ切り痕を残す。焼成不良で、内外面に炭素付着。

土坑124号（V地区　SK2124）（第842図）

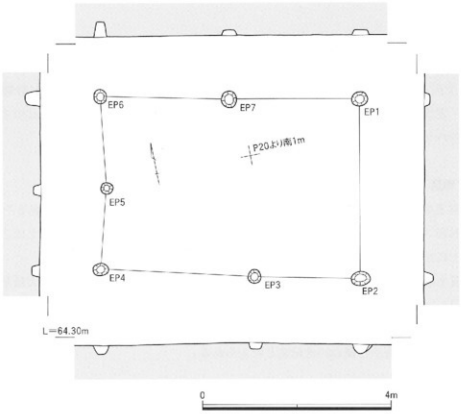
V－4区西部、P13グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西96cm南北検出長85cm深度22cmを測る隅丸長方形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、1487は土師器皿の底部。外面に回転ヘラ切り痕を残す。炭素付着。

土坑134号（V地区　SK2134）（第843図）

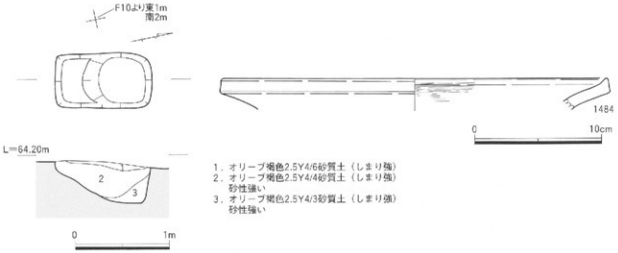
V－4区東部、O1グリッドに位置する、長軸67cm短軸55cm深度18cmを測る不整な隅丸方形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1488は土師器杯の底部。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。

土坑144号（V地区　SK2144）（第844図）

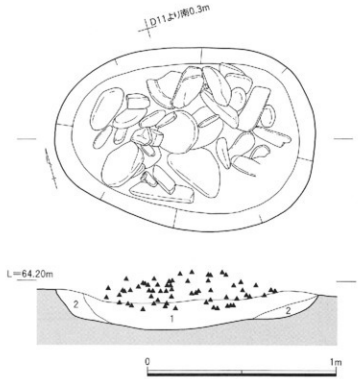
V－4区東部、N2・3グリッドに位置する、長軸105cm短軸62cm深度19cmを測る楕円形土坑。主軸はN72°Wを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器杯・煮炊具、青磁碗が出土。1489は青磁碗の上半部。端反りの口縁をもつ。釉に貫入を伴う。上田分類D－1類に相当し、14世紀代の年代が与えられる。



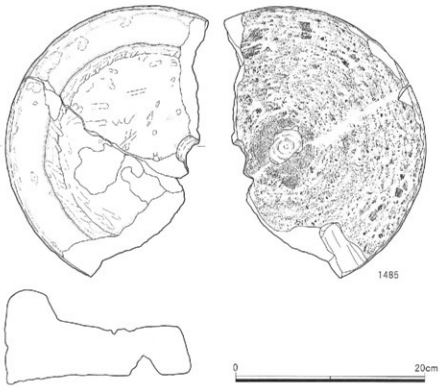
第838図　V地区SA2011遺構実測図



第839図　V地区SK2112遺構・遺物実測図



1．オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土（しまり強）
砂性強い
2．オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり弱）



第840図　V地区SK2115遺構・遺物実測図